






Dell™ オンライン式ラック型UPS
3750W および4200W

ユーザーガイド

K804N, H952N, 746FR (DellR4200LHVUS), J730N, K805N
J739N

注記および警告

-  **注記：**「注記」は、ソフトウェアを有効に利用するための重要な情報を示しています。
-  **危険：**「危険」は、回避しないとほぼ確実に死亡、または重傷を招く危険な状況を示しています。
-  **警告：**「警告」は、回避しないと死亡、または重傷を招く潜在的に危険な状況を示しています。
-  **注意：**「注意」は、回避しないと軽傷、または中程度の傷害を招く恐れがある潜在的に危険な状況を示しています。

 **危険：**回避しないとほぼ確実に死亡、または重傷を招く危険な状況を防ぐため、以下の説明をよくお読みください。

- このUPSの中には**致命的な電圧**が掛かっています。すべての修理や点検は、**公認のサービススタッフのみ**が行わなければいけません。UPS内には**ユーザーが修理可能な部品**はありません。
- 本機器はクラスA障害発生機器です。住宅環境では、無線の混信を引き起こすことがあります。その際は、ユーザー自身が追加の対策を講じなければならないこともあります。

当資料の情報は、予告なく変更されることがあります。

© 2011 Dell Inc. 無断複写・転載を禁じます。

Dell Inc.の書面による許可のない複写は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

当テキストに使用されている登録商標：Dell および DELL のロゴは、Dell Inc.の登録商標です。National Electrical Code および NEC は、National Fire Protection Association, Inc.の登録商標です；Phillips は、Phillips Screw Companyの登録商標です。

本書に使用されているその他の登録商標および商標名は、商標や名称を主張する事業者、あるいは製品のいずれかに言及します。Dell Inc.は、Dell自身が所有する以外の登録商標および商標権におけるいかなる所有権を一切放棄します。

目次

1 はじめに	
情報検出	8
2 安全性に関する警告	
3 インストール	
製品の検査	12
キャビネットの開梱	13
UPS後方パネルの識別	15
UPS前方パネルの識別	18
ラックマウント式設置方法	19
取り付け方法 外付けバッテリーモジュール	25
UPSを取り付けます。	26
リモートエマージェンシーパワーオフの取り付け方法	26
UPS入力の配線	28
UPSの初期起動	30
4 操作	
UPSの起動およびシャットダウン	32
UPSの起動方法	32
バッテリーモードでのUPSの起動	33
UPSシャットダウン	33
コントロールパネルの機能	34
言語の変更	35

ディスプレイ機能	35
起動画面	35
画面のロック	36
UPSステータス	36
イベントログ	39
測定結果	40
コントロール画面	41
識別表示	42
設定	42
UPSのモード間の移行	47
正常モードからバイパスモードへの移行	47
バイパスモードから正常モードへの移行	48
電力対策設定	48
イベントログの読み込み	49
過負荷の際における行動	49
負荷セグメントの設定	50
ディスプレイを通じて負荷セグメントを管理	50
自動開始遅延時間の設定	51
自動バッテリー運転シャットダウン設定	52
バッテリー設定	53
UPSの設定 外付けバッテリーモジュール	53
自動バッテリーテストの実行	54
自動バッテリーテストの設定	54
自動再起動の設定	54
5 追加のUPS機能	
RS-232およびUSB通信ポート	55
Dell ネットワークマネージメントカード (オプション)	57
Dell UPS制御ソフトウェア	58

6	UPSのメンテナンス	
	UPSおよびバッテリーの手入れ	59
	UPSの移動	59
	UPSおよび電池の保管方法	61
	バッテリーの交換時期	61
	バッテリーのテスト	62
	UPSファームウェアの更新	62
7	仕様	
8	トラブルシューティング	
	警告の表示方法および状態	67
	UPSステータスメニュー	67
	イベントログメニュー	68
	一般的な警告および状態	68
	警報音の消音方法	72

はじめに

Dell™ オンライン式ラック型無停電電源装置（UPS）は、停電や電力低下、電力サージ、電圧低下、回線ノイズなどの電力の基本的な問題からお使いのデリケートな電子機器を守ります。

思いもよらない時に停電が起こる場合もあり、電力の質が不安定になる場合があります。こういった電力問題には、重要データを破損させ、保存されていない作業セッションを破壊し、ハードウェアに損傷をもたらす可能性があり、生産性の多大な損失や高額な修理代がかかります。

Dell オンライン式ラック型UPSでは、電力妨害の影響を安全に抑え、機器の完全性を保護することができます。UPSには一連のネットワーク機器を扱うことができる柔軟性があるため、お客さまのLANやサーバー、ワークステーション、その他の電子機器を保護する最適な選択です。

図1は、Dell オンライン式ラック型UPSを示しています。

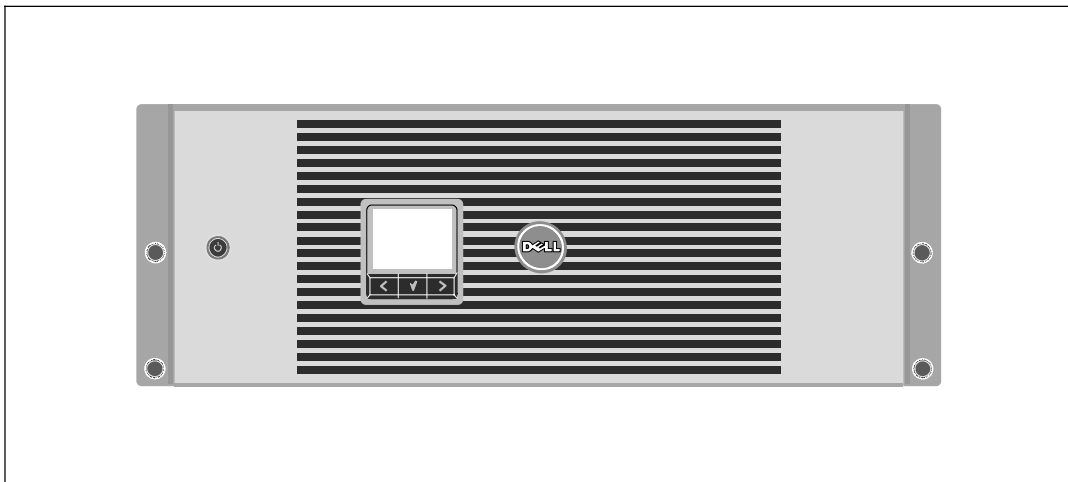



図 1. Dell オンライン式ラック型UPS

UPSは優れた性能や信頼性を提供し、以下のような独自の利点がございます：

- 正弦波出力のあるオンラインUPS設計。UPSは、入力される交流電力をフィルター処理、調節し、バッテリーを消耗せずに機器へ安定した電力を供給します。
- 高出力密度や商用周波数依存性、発電器の互換性を持つオンライン二重変換技術。
- 選択可能な作動の高性能モード。
- 48 cm (19h) 標準ラックにぴったりの4U サイズ。
- 外部電力がないときでもUPSの電力を入れることができる始動電池の能力。
- オプションの外付けバッテリーモジュール（外付けバッテリーモジュール）および拡張ランタイム。
- リモートエマージェンシーパワーオフ（REPO）ポートを通じた緊急シャットダウン制御。
- 2つの標準通信ポート（USBおよびDB-9シリアルポート）。
- オプションとして、増加電力の保護や制御を行う高度通信機能付きDell ネットワークマネジメントカード。
- スムースなシャットダウンや電力管理を行うDell UPS制御ソフトウェアによる高度電力管理。
- 負荷セグメントと呼ばれる個別のレセプタクルグループを通じた逐次シャットダウンおよび負荷制御。
- カスタマーサービスに問い合わせる必要なく、簡単にアップグレードができるファームウェア。
- 世界中の代理店の承認による支持。

情報検出

 **注意：安全、環境、規則に関する情報資料には、安全および規定に関する重要情報が含まれています。**

どんな情報をお探しですか？

- UPSユーザーガイド
- Dell ネットワークマネジメントカード用のユーザーガイド
- Dell UPS制御ソフトウェア

こちらでご覧いただけます

Dell UPS ディスク



注記：最新のソフトウェアおよびドキュメンテーションは、www.support.dell.com およびwww.dellups.comで入手可能です。

-
- 仕様
 - UPSの設定方法
 - トラブルシューティングおよび問題の解決方法
 - REPO制御のインストール方法

Dell UPS ユーザーガイド

ユーザーガイドはDell UPS ディスクおよびwww.support.dell.comで入手することができます。

-
- 安全に関する説明書
 - 規則に関する情報
 - リサイクルに関する情報

安全、環境、規則に関する情報

-
- 保証情報
 - 使用上の条件（アメリカのみ）
 - エンドユーザー使用許諾契約

Dell 保証およびサポート情報

-
- サポート情報

Dell サポートウェブサイト— www.support.dell.com

注記：使用する地域や事業区分を選択し、適切なサポートサイトをご覧ください。

安全性に関する警告

⚠ 注意：当資料の手順を実施する前に、**安全、環境、規則に関する情報資料**に記載されている安全に関する説明書および重要な規制情報をご覧ください、これらの情報に従ってください。

重要な安全に関する説明書 この説明書を保管してください

この説明書には、UPSおよび電池の取り付けおよびメンテナンスの最中に従うべき重要な説明が含まれます。機器の操作の前にすべての指示をお読みいただき、今後の参考のためにこの説明書を保管してください。

⚠ 危険：回避しないとほぼ確実に死亡、または重傷を招く危険な状況を防ぐため、以下の説明をよくお読みください：

- このUPSの中には**致死的な電圧**が掛かっています。すべての修理や点検は、**公認のサービススタッフのみ**が行わなければいけません。UPS内には**ユーザーが修理可能な部品**はありません。

⚠ 警告：回避しなければ、死亡、または重傷をもたらす可能性のある危険な状態を防ぐため、以下の指示をご確認ください：

- 電気設備の取り付けは、資格のあるサービス担当者（電気主任技術者など）に依頼してください。感電の恐れがあります。
- 配線接続入力があるUPS型の場合、出力AC回路の過電流保護は、供給範囲外となり、別途用意していただく必要があります。
- 配線接続入力があるUPS型の場合、出力AC回路の定格の切断スイッチは、供給範囲外となり、別途用意していただく必要があります。
- 出力過電流保護および切断スイッチは、供給範囲外となり、別途用意していただく必要があります。
- このUPSには、UPS自体のエネルギー源（電池）が含まれています。UPSがAC電源に接続されていない時でも、出力レセプタクルに、生きた電圧が掛かる場合があります。
- UPSの電源が入っている際は、入力コードを取り外したり抜いたりしないでください。これは、UPSやUPSに接続されている機器から安全な接地を取り除くことになります。
- 火災の危険を抑えるため、米国電気工事規格[®]（NEC[®]）、ANSI/NFPA 70、または現地の電気工事規定に従い、アンペア定格で分岐回路の過電流保護を行っている回路にのみ接続してください：


UPS出力	200V	208V	230V
3750W	—	30A	25A
4200W	30A	30A	30A

- 火災や感電の危険を抑えるためには、管理された温度や湿度における室内環境のもとで、導電性汚染のない場所で当UPSを取り付けてください。室内温度は、40°C (104°F) を超えてはいけません。水の近辺、あるいは高湿度の環境（最高 95%）で操作は行わないでください。
- 低温環境でキャビネットを開梱すると、キャビネット内もしくはキャビネット上に結露が発生する可能性があります。キャビネットの内部および外部が完全に乾くまで、取り付けないようにしてください（感電の危険性）。
- UPSの移動を必要とする場合は、移動の前に内部のUPSバッテリーを切り離してください（59ページ参照）。




注意：回避しなければ、死亡、または重傷をもたらす可能性のある危険な状態を防ぐため、以下の指示をご確認ください：

- プラグ着脱可能な機器では、電源出力を機器の近辺に取り付け、使用しやすい場所に置いてください。
- バッテリーの取り外しは、バッテリーや必要とされる安全上の注意に関して知識のあるスタッフが行うか、知識のあるスタッフが監視する必要があります。許可のないスタッフをバッテリーに近寄らせないようにしてください。
- 電池には、大きな短絡回路電流による感電や火傷の危険があります。以下の予防措置に注意してください：1) 腕時計や指輪、その他の金属製品を取り外してください；2) 絶縁されたハンドルが付いている工具を使用してください；3) ゴム製の手袋や長靴を着用してください；4) バッテリーの上に、工具や金属部品を置かないでください；5) バッテリー端子の取り付け、または取り外しの前に、充電器を切断してください。
- バッテリーが不適切に接地されていないか判断してください。不適切に接地されている場合、接地から商用源を取り外してください。接地されたバッテリーに接触すると、感電をもたらすことがあります。取り付けおよびメンテナンス中に接地を取り外すと、感電の可能性を抑えることができます（接地供給回路がない機器やリモートバッテリー電源に適用）。
- 電気エネルギー危険。電池の配線やコネクタの変更を行わないでください。配線の変更は、害を及ぼす危険があります。
- UPSに最初に取り付けたものと同じ番号や種類の電池で、電池交換を行ってください。
- 電池の適切な廃棄を行う必要があります。処理の際の必要条件に関しましては、現地の条例をご参照ください。
- 火の中に電池を捨てないでください。炎に近づけると、電池が爆発する可能性があります。
- 電池を開けたり破損しないでください。放出された電解質は、肌や目に害を及ぼし、非常に有毒である可能性があります。
- UPSが接続できる外付けバッテリーモジュール外付けバッテリーモジュールは最大1つです。

 **警告：ラックマウント式システムの追加説明書**

- ラックのキットは、同梱のラックキャビネット用のみ認可されています。その他のラックへの機器の取り付けが、適用されるすべての基準に従っていることを確かめることは、お客さまの責任となります。Dell では、その他のラックとの機器の設置に関し、すべての責任や保証を放棄します。
- ラックに機器を設置する前に、前方および横にある安定装置を取り付けてください。安定装置を取り付けない場合、ラックが転倒する可能性があります。
- 下から上へ荷積みし、最初に一番重いものから積んでください。
- ラックへ電力を供給するAC電源分岐回路に電流を流し過ぎないようにしてください。
- ラックの部品の上に乗ったり、踏んだりしないでください。

 **警告：スライド/レールマウント式機器は、棚、または作業場として使用しないでください。**



スライド/レールマウント式機器に重量を加えないでください。

インストール

この章では以下を説明します：

- 製品の検査
- キャビネットの開梱
- UPSの後方パネル
- UPSの設置および取り付け 外付けバッテリーモジュール（外付けバッテリーモジュール）を含む
- リモートエマージェンシーパワーオフ（REPO）インストール
- 初期起動

製品の検査

発送中に製品が損傷を受けた場合は、輸送業者あるいは購入場所が分かるように発送用段ボールおよび梱包材を処分せず保存し、発送中の損傷の支払い請求を行ってください。受領後に損傷が分かった場合は、隠ぺい損害の支払い請求を行ってください。

輸送中の損傷、あるいは隠ぺい損害の支払い請求は、以下のように行ってください：1) 装置の受領から15日以内に、輸送業者に支払い請求を申請；2) 15日以内に、損害請求書のコピーを顧客サービス担当者へ送付。



注記： 発送用段ボールのラベルに記載された電池の再充電日をご確認ください。日付が過ぎていて、電池の再充電がされていない場合は、UPSのご使用はおひかえください。顧客サービス担当者へお問い合わせください。

キャビネットの開梱

⚠ 注意：低温環境でキャビネットを開梱すると、キャビネット内もしくはキャビネット上に結露が発生する可能性があります。キャビネットの内部および外部が完全に乾くまで、取り付けないようにしてください（感電の危険性）。

⚠ 注意：キャビネットにはかなりの重量があります（63ページを参照）。注意して開梱し、キャビネットを移動します。

箱の移動や開梱の際は、注意を払ってください。取り付ける準備が整うまで、部品はパッケージから出さずにそのままにしておきます。

システムの開梱方法：

- 1 段ボール箱を開き、キャビネットと同梱の付属品を取り外します。（図2を参照）。

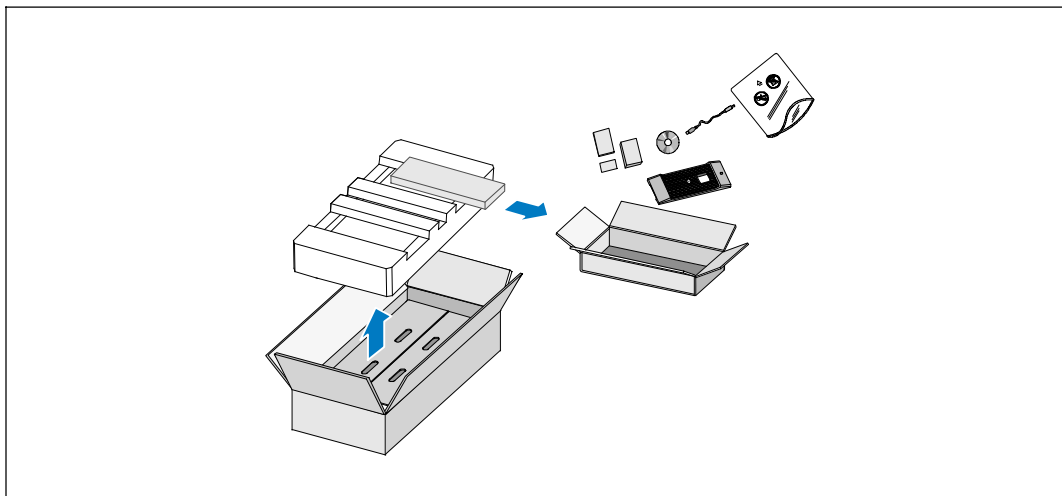


図 2. システムの開梱

- 2 片側を一人ずつで持ち、段ボールのハンドル部分を使って、段ボール箱からキャビネットを注意して持ち上げ、平らな安定した表面上に置きます。（図3を参照）。

風通しのよく、湿度や可燃性ガス、腐食などがない保護された場所にキャビネットを置きます。

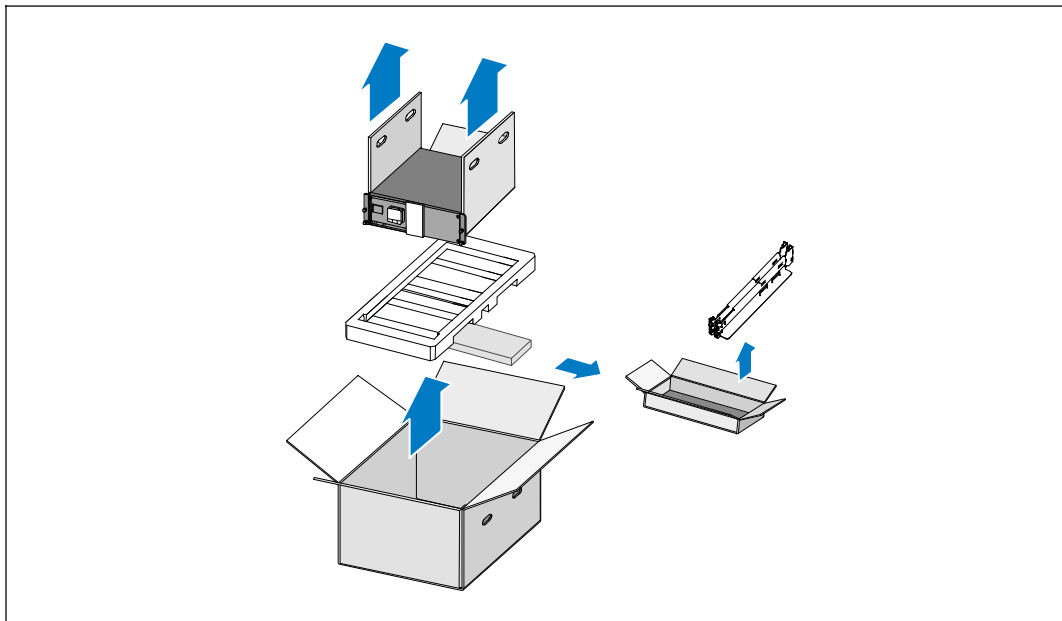


図3.キャビネットとレールキットの取り外し

- 3 レールキットを取り外します。
- 4 責任を持ってパッケージを処分またはリサイクルするか、もしくは今後の使用のために保管します。

UPS後方パネルの識別

このセクションは、Dell オンライン式ラック型型の後方パネルを示しています。

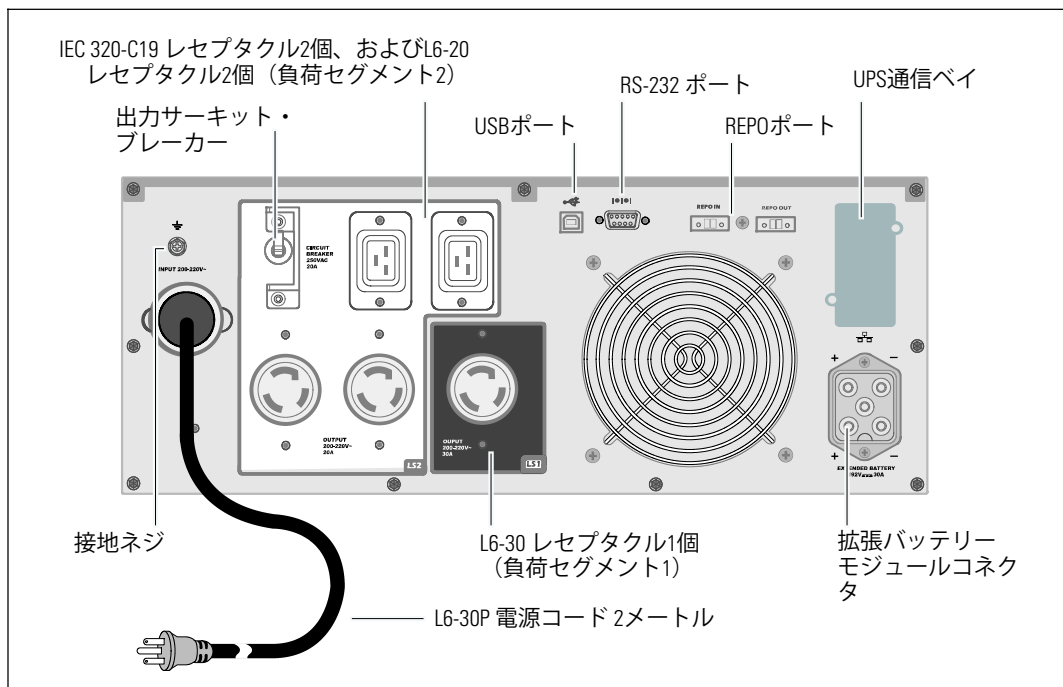


図 4. 3750W, 208V 後方パネル

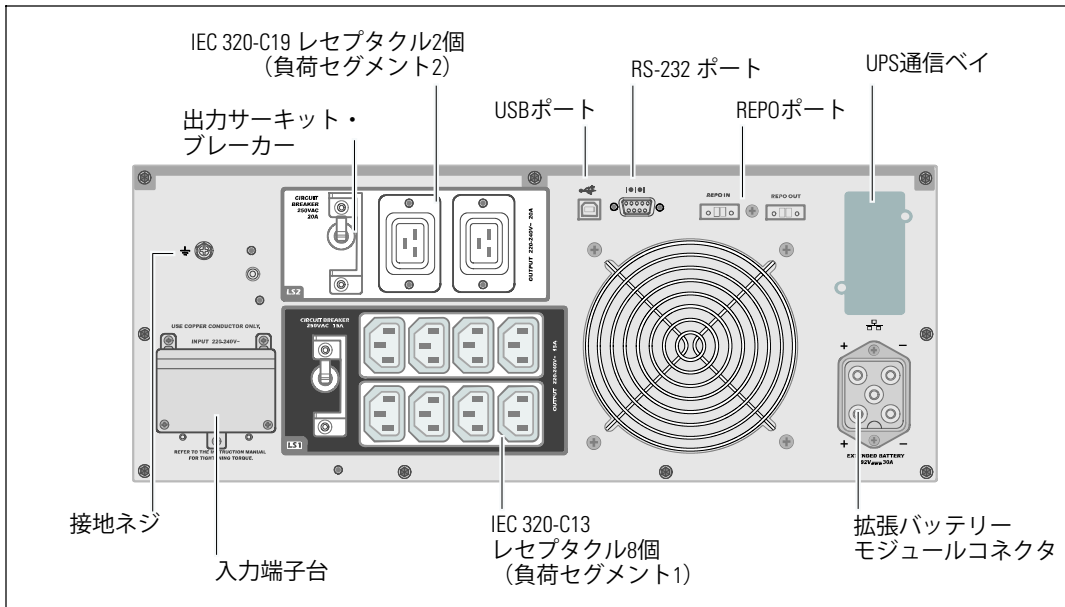


図 5. 3750W, 230V 後方パネル

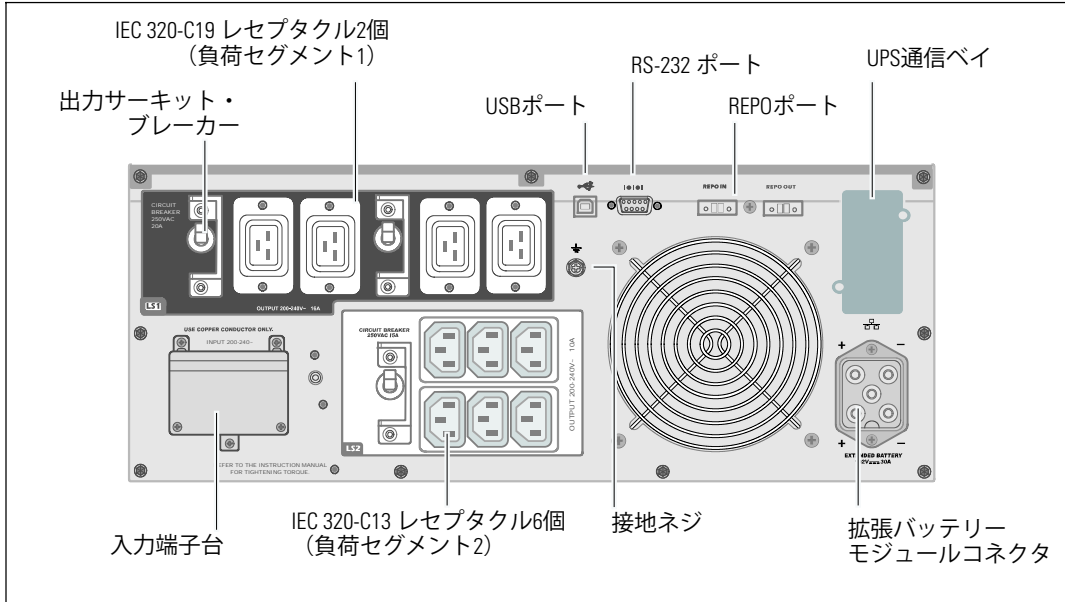


図 6. 4200W, 200V 後方パネル

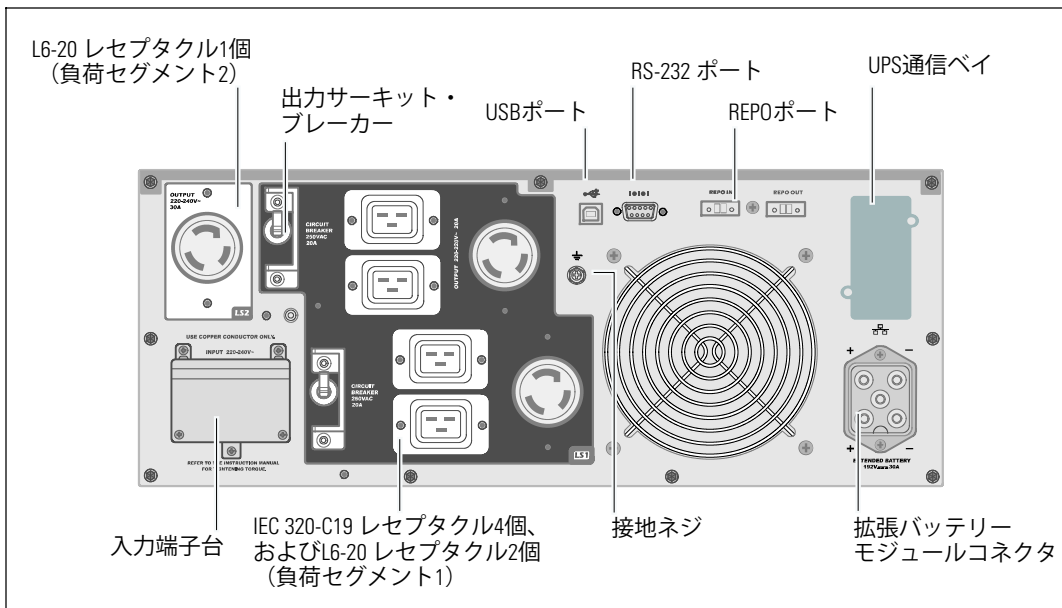


図 7. 4200W, 208V 後方パネル

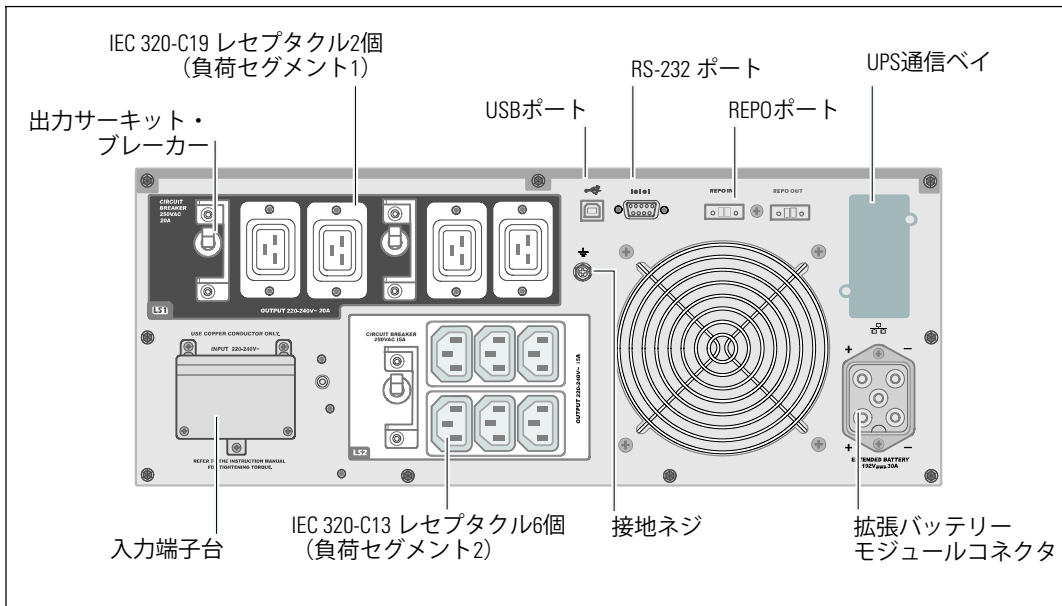


図 8. 4200W, 230V 後方パネル

UPS前方パネルの識別

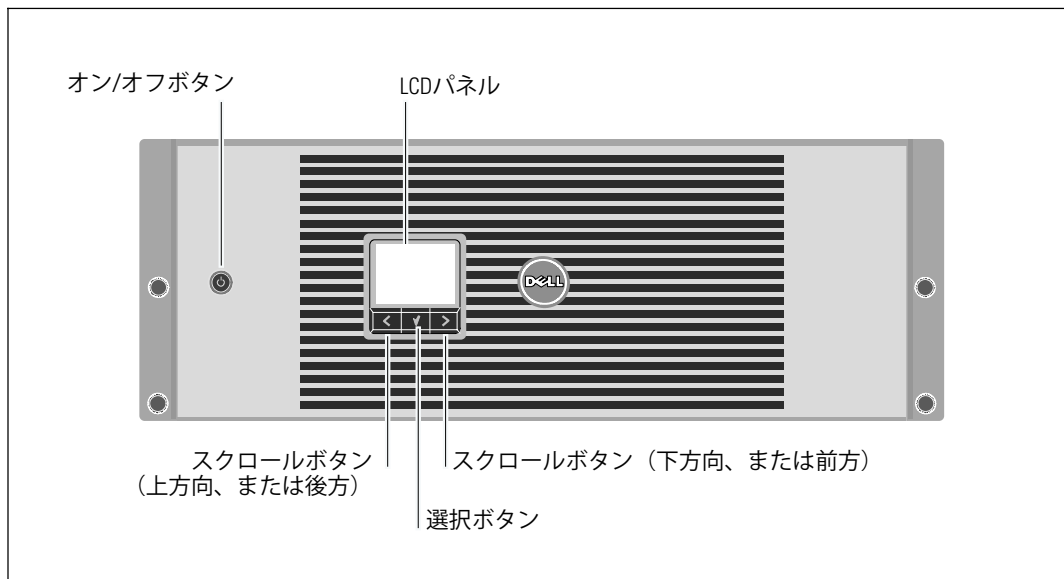


図 9. Dell オンライン式ラック型UPS前方パネル

ラックマウント式設置方法

- ⚠ **注意：**キャビネットにはかなりの重量があります（63ページを参照）：1) Dellは、持ち上げる前に、UPSからバッテリートレイを取り外すことを推奨します。2) キャビネットをラックに移動するには、最低2名必要です。
- ⚠ **注意：**バッテリーの取り外しは、バッテリーや必要とされる安全上の注意に関して知識のあるスタッフが行うか、知識のあるスタッフが監視する必要があります。許可のないスタッフをバッテリーに近寄らせないようにしてください。
- ⚠ **注意：**オプションの外付けバッテリーモジュールを取り付ける場合は、UPSの直接下に外付けバッテリーモジュールを取り付けます。
- 📌 **注記：**取り付けレールは、各キャビネットに必要となります。

UPSおよびオプションの外付けバッテリーモジュールをラックに取り付ける方法：

- 1 UPSから内蔵バッテリートレイを取り外します：

バッテリー固定ブラケットにある蝶ネジを緩め、取り外します（図10を参照）。

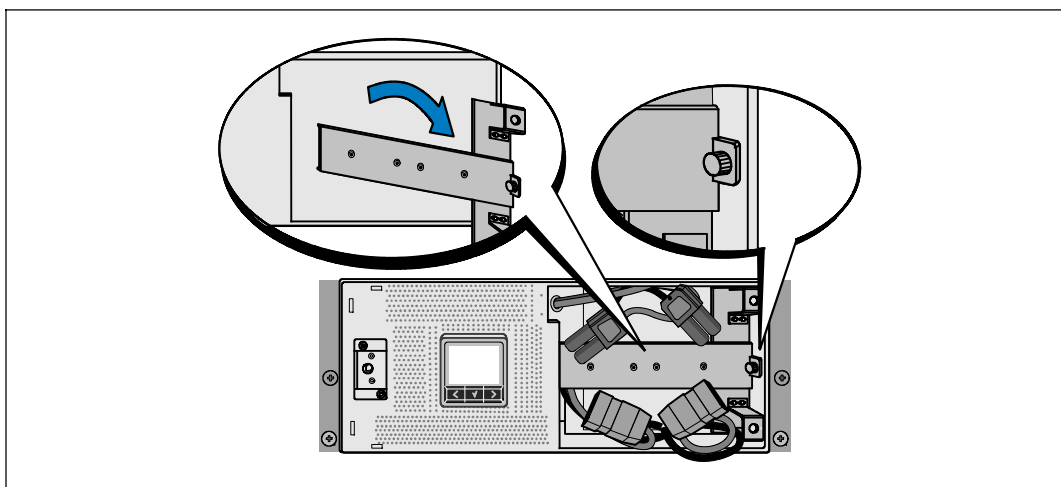


図10. バッテリー固定ブラケットの取り外し方法

プラスチックのつまみを使ってバッテリートレイを引き抜き、バッテリートレイを取り外します（図11を参照）。

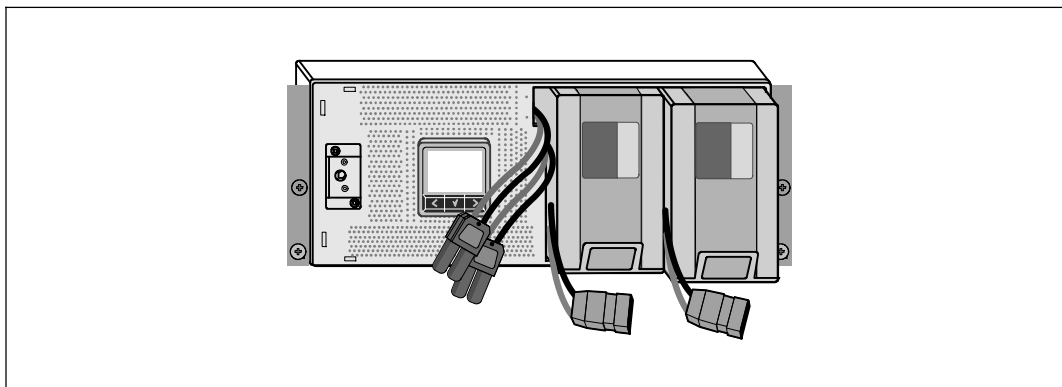



図 11. バッテリートレイの取り外し方法

- 2 追加でUPSを取り付ける場合は、ステップ1を繰り返し行い、各キャビネットを取り付けます。
-  **注記：**四角型の穴や、ネジ無し穴、丸型穴のラックは、すべて同じ手順です。レールは両方のラックスタイルに適合します。四角型の穴用のラックを図表に示しています。
- 3 レール上の適切な穴を選び、ラック上の希望する位置にキャビネットを配置します。
レールは、UPSにある4Uのスペース、または外付けバッテリーモジュールにある3Uのスペースの底に配置します。
- 4 FRONTとラベル表示されている左側および右側のレールの端が内側に向く用に配置します。

5 レールをラックに取り付ける方法：

垂直のラックフランジに完全にはまり、フック止めが所定位置に固定するまでレールの後端部をはめ込みます（図 12を参照）。

レールを手前に引きます。

垂直のラックフランジに完全にはまり、フックラッチが所定位置に固定するまで、レールの前端部をはめ込みます。

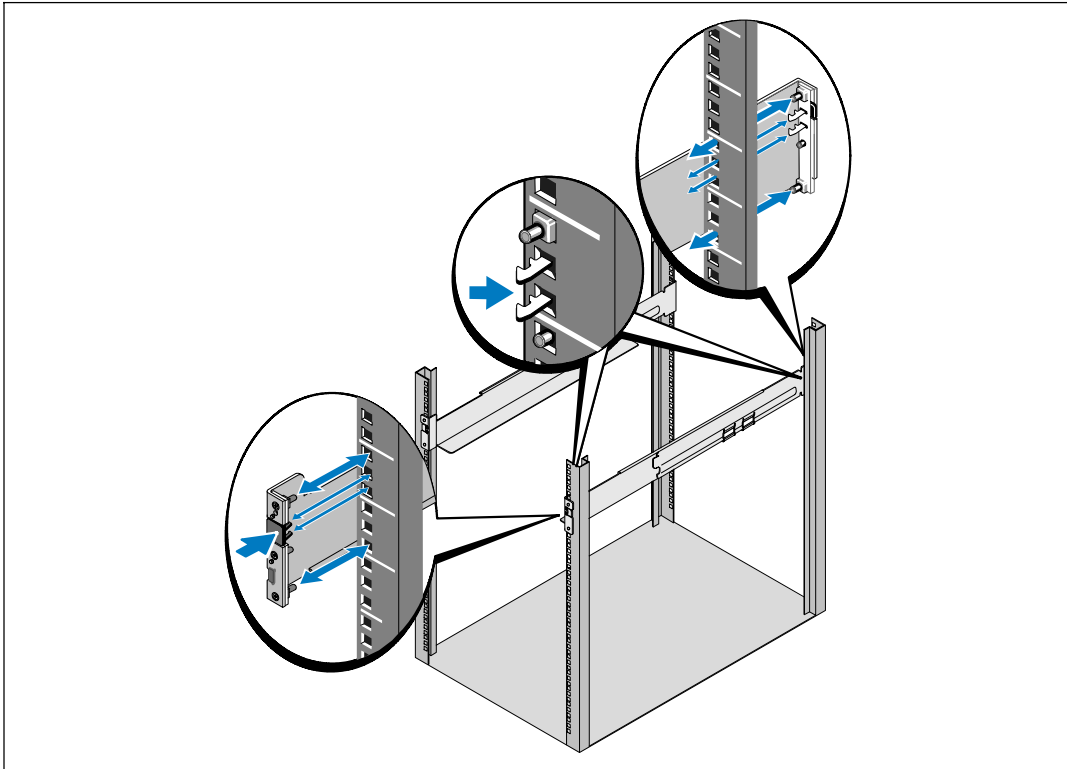


図 12. レールの取り付け方法

- 6 キャビネットをラックにスライドして取り付けます（図 13を参照）。その他のキャビネットも同じ方法で固定します。

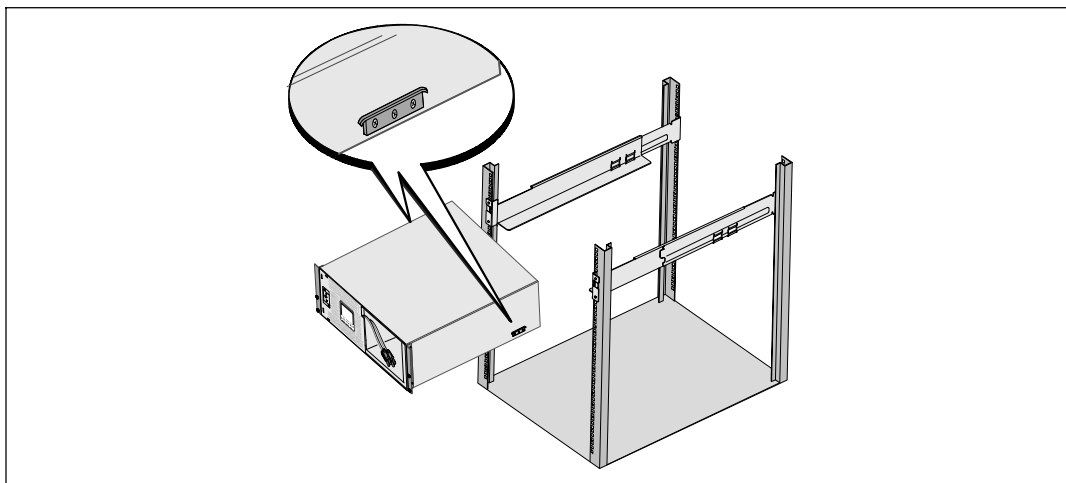


図 13. キャビネットの設置方法

- 7 マウンティングブラケットにある4つの蝶ネジを使って、キャビネットの前方をラックに固定します（図 14を参照）。手で強く締めてください。電動工具は使用しないでください。その他のキャビネットも同じ方法で固定します。

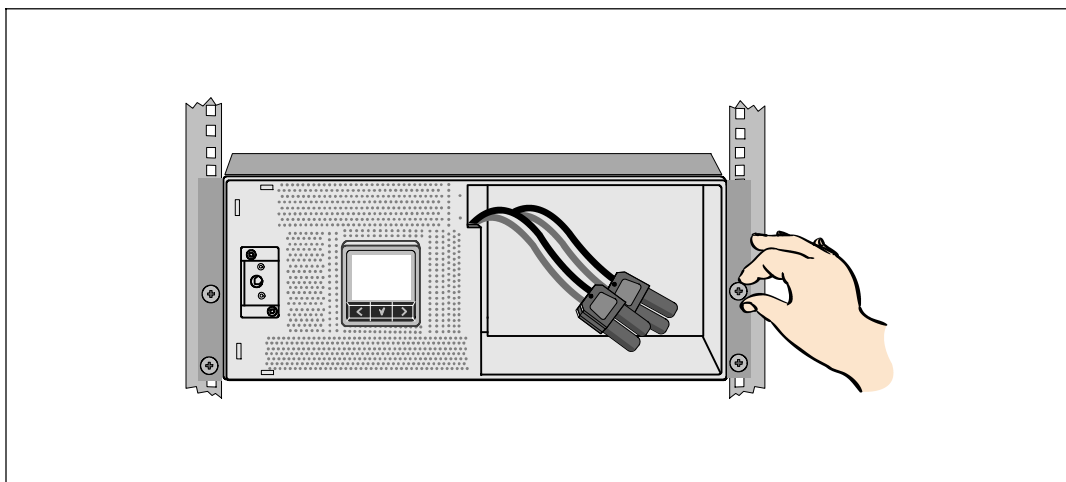


図 14. キャビネットの固定方法

8 UPSバッテリートレイを取り付けます（図 15を参照）。

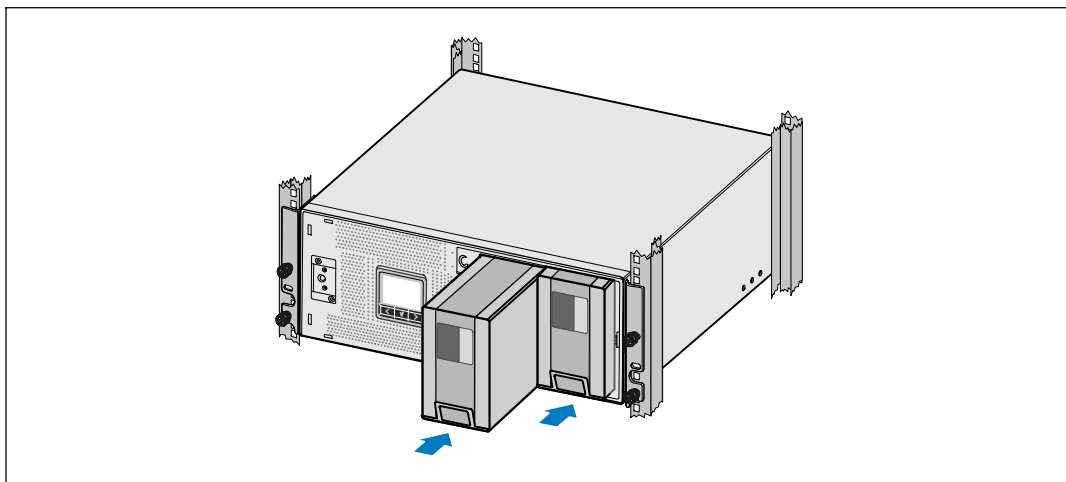



図 15. バッテリートレイの取り付け方法

9 バッテリー固定ブラケットを取り外します図 16。

10 蝶ネジを強く締めます。

ネジを0.7 Nm (6.2 lb in)のトルクで締めます。

 **注記：** バッテリーを接続する際、少量のアーカ放電が起こることがあります。これは正常であり、装置に損傷を与えたり、安全にかかわる心配はありません。

11 内蔵バッテリーコネクタを取り付け、2つの止め金具の間にバッテリー固定ブラケットを取り付けます。

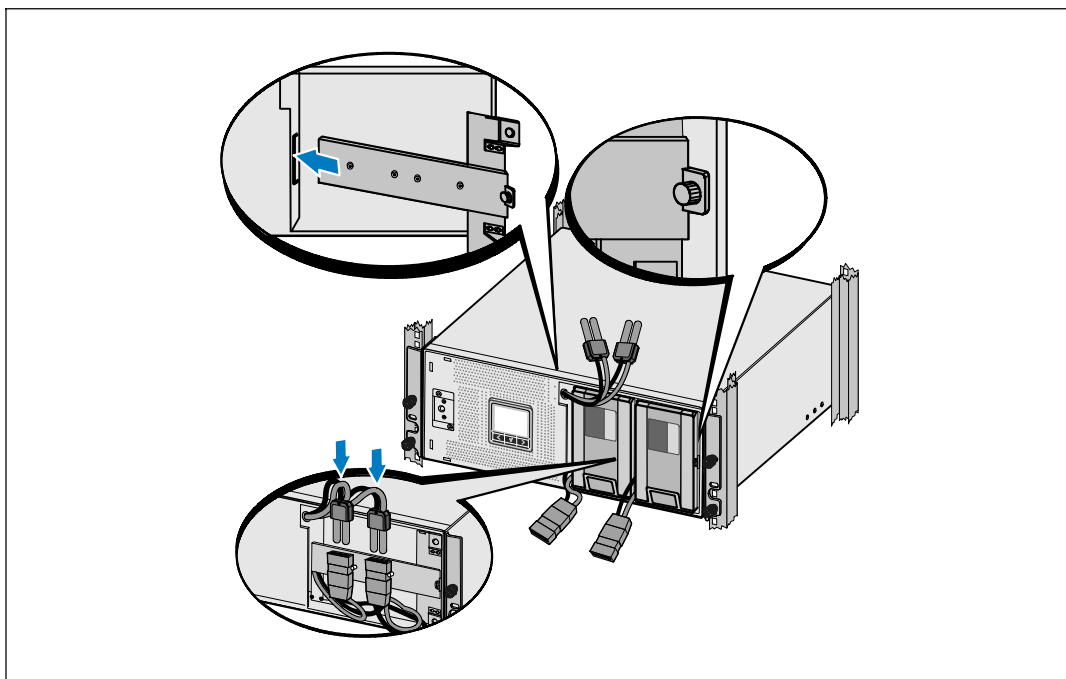


図 16. バッテリー固定ブラケットの取り外し方法および内蔵バッテリーコネクタの取り付け方法

12 UPSフロントカバーの取り付け方法（図 17を参照）

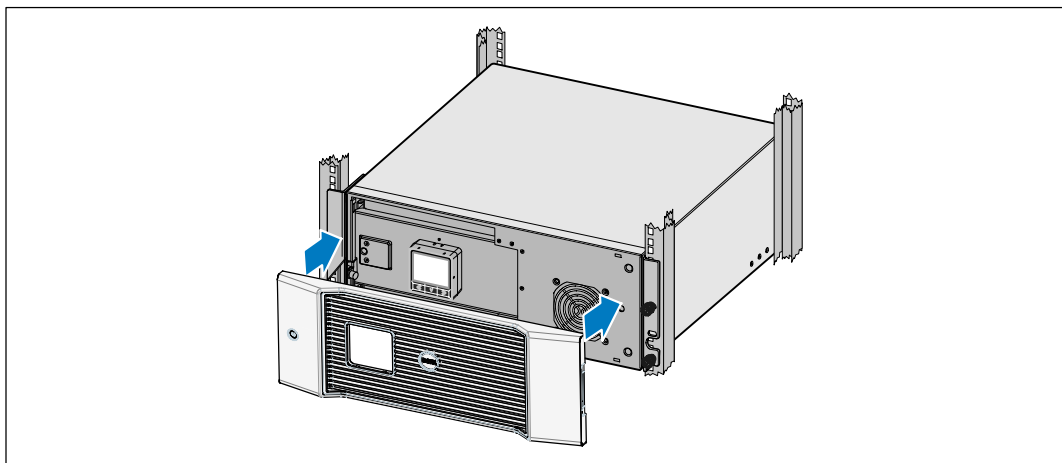


図 17. UPSのフロントカバーの取り付け方法

取り付け方法 外付けバッテリーモジュール

注記：外付けバッテリーモジュールをUPSに接続する際、少量のアーク放電が起こることがあります。これは正常であり、人に損傷を与えることはありません。即座にしっかりと、外付けバッテリーモジュールケーブルをUPSバッテリーコネクタへ挿入します。

オプションの外付けバッテリーモジュールの取り付け方法：

- 1 外付けバッテリーモジュールケーブルをUPSバッテリーコネクタへ差し込みます（図 18を参照）。

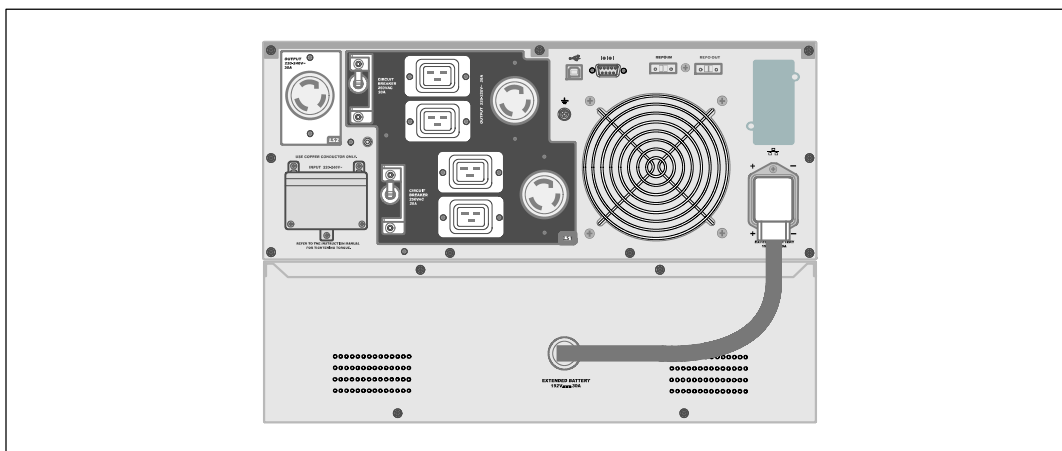



図 18. 外付けバッテリーモジュール取り付け方法

UPSを取り付けます。

UPSの取り付け方法：

- 1 Dell UPS制御ソフトウェアを使用する場合は、同梱のケーブルを使って、コンピューターをUSBポートへ接続してください。通信オプションに関する詳細は、55ページをご参照ください。
- 2 お使いのラックに、接地用、あるいは非接地金属部品の接合用の導体がある場合は、接地ケーブル（同梱されていません）を接地接合ネジに接続します。各型のグラウンドボンディングネジの箇所に関しましては、15ページの「UPS後方パネルの識別」をご参照ください。
- 3 エマージェンシーパワーオフ（切断）スイッチが局所コードにより必要となる場合は、次のセクションの「リモートエマージェンシーパワーオフ（REPO）の取り付け方法」を参照し、UPSに電源を入れる前に、REPOを取り付けてください。
- 4 保護する装置をUPS出力レセプタクルに差し込みます。ただし保護装置の電源は入れないでください。
- 5 コードの固定や張力緩和に備え、必要に応じて用意します。

 **注記：** 過負荷アラームを防ぐため、装置の定格の合計がUPSの容量を超えていないか確認してください。


リモートエマージェンシーパワーオフの取り付け方法


REPOは、遠隔地からUPSをシャットダウンするために使用されます。例えば、室内が温度過昇の際、熱動継電器が負荷やUPSをシャットダウンする目的のために使われます。REPOがアクティブの際、UPSは出力やすべての電力変換装置を直ちにシャットダウンします。UPSのロジック電力は、警告を送るために電源が入ったままになります。

REPO機能は、保護している機器を直ちにシャットダウンし、パワーマネージメントソフトウェアが始動した規則的なシャットダウン手順には従いません。バッテリー電力で作動している機器も同様に、すぐにシャットダウンします。

REPOのスイッチがリセットされると、UPSが手動で再起動されるまで、機器は商用電力やバッテリー電力に戻りません。

REPOの端子は、通常むき出しになっています。

 **警告：** REPOの回路は、IEC 60950安全特別低電圧（SELV）回路です。この回路は、強化絶縁によって、危険な電圧回路から分離されなければいけません。

 **注意：** REPOは、回路に接続されたユティリティに接続してはいけません。ユティリティへの強化絶縁が必要です。REPOスイッチには、最小定格である24 Vdcおよび20 mAがあり、その他の回路に接合されていない専用のラッチタイプのスイッチでなければいけません。REPO信号は、適切な作動のために、最低250 ms間アクティブである必要があります。

注意：UPSが作動モードの間に負荷への電力供給を停止するには、エマージェンシーパワーオフ機能がアクティブの際、入力電源をUPSから切り離す必要があります。

注記：ヨーロッパの場合、非常スイッチの要件が以下に詳しく記されています: Harmonized document HD-384-48. S1の「建物の電気インストール、パート4：安全性のための保護、第46章：絶縁およびスイッチ」

REPOの接続

ワイヤーの機能	端子ワイヤーサイズ定格	推奨されるワイヤーのサイズ
REPO	L1 L2	4–32 mm ² (12–2 AWG) 0.82 mm ² (18 AWG)

注記：UPSの作動を保つためには、ピンは開路させておいてください。REPOのコネクターピンが短絡したためにUPSがシャットダウンした場合には、REPOのコネクターピンをもう一度開路させてUPSの再起動を行い、手でUPSの電源を入れてください。短絡ループ最大抵抗力は10 ohmです。

注記：不慮の負荷損を避けるため、重大な負荷を使用する前に、REPO機能のテストを常に行ってください。

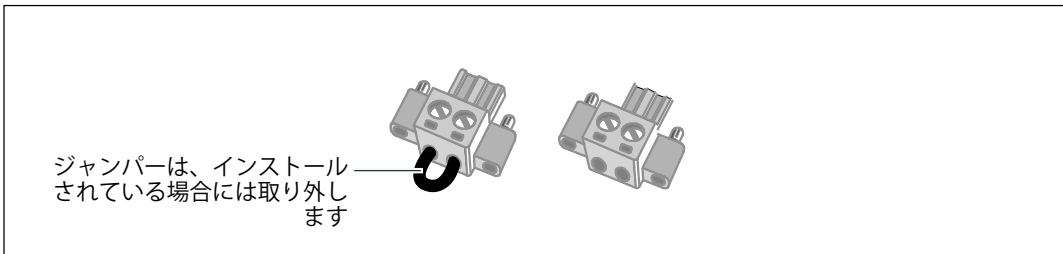


図 19. REPOコネクタ


REPOスイッチの取り付け方法：

- 1 UPSの電源がオフで、電気プラグが抜かれているか確認します。
- 2 付属キットからREPOコネクタを取り出します。

注記：REPOコネクタに取り付けられているジャンパーがないことをご確認ください。ジャンパーが取り付けられている場合は、REPOポートに接続する前に取り外してください。

- 3 REPOコネクタを、UPSの後方パネル上に「IN」と表示されているREPOポートに接続します。
- 4 **オプション。**REPO機能を別のUPSに連結している場合は、一つのスイッチでシステム全体をシャットダウンすることができます。

2つ目のREPOコネクタを「OUT」と表示されているREPOポートに接続します。


 **注記：**別に接触した場合は、接触と同時にUPSからのAC給電を遮断しなければなりません。

- 5 0.75 mm²-5 mm² (18-0 AWG) の絶縁電線を使い、UPSのリヤパネル上にあるREPOコネクタにスイッチまたは回路を接続します。

オプション。 REPO機能を別のUPSに連結している場合は、「OUT」と表示されたREPOポートを、次のUPSにある「IN」と表示されたREPOポートへ接続します。この手順を各UPSに応用します。連結した最後のUPSにおいて、REPOコネクタ（ジャンパーなし）を「OUT」と表示されたREPOポートへ接続します。

- 6 外部に接続されたREPOスイッチがアクティブではなく、UPS出力レセプタクルへ電力を供給していないことをご確認ください。
- 7 配線接続型の場合は、次のセクションの「UPS入力配線」に進んでください。それ以外の場合は、30ページの「UPS初期起動」へ進んでください。

UPS入力の配線

 **警告：**電気設備の取り付けは、資格のあるサービス担当者（電気主任技術者など）に依頼してください。感電の恐れがあります。

Dell オンライン式ラック型配線接続型は、以下の条件を満たす専用分岐回路が必要です：

- 短絡および過電流保護のための250V/30Aの二極ブレーカー（3750W/230V UPS型は25A）
- 保護装置は、UPS出力および負荷間に、二極切断装置が必要です（図 20を参照）
- ブレーカーは、壁掛け式であり、操作員が容易にアクセスできる場所になくはいけません
- ヨーロッパでは、ブレーカーは、IEC/EN 60934 基準を満たし、最低3mmの接続空隙がなくはいけません
- 200-40 Vac
- 単相（4200W/208V 型は、分相）
- 50/60 ヘルツ
- 柔軟性のある金属製導管（修理および保守が容易に行えるため推薦）

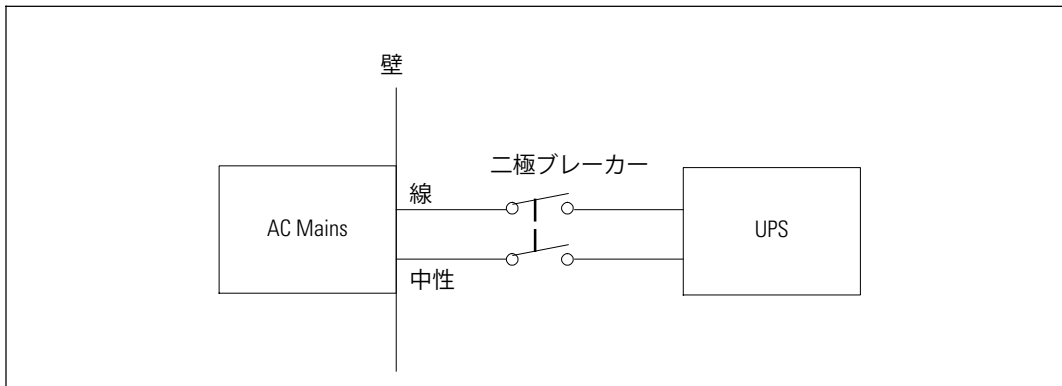


図 20. ブレーカー略図

UPS入力の配線方法：

- 1 UPSを接続する分布点での外部電力をオフにします。電力が完全がないことを確認します。
- 2 端子台カバー（ネジ4個）を取り外し、固定します。

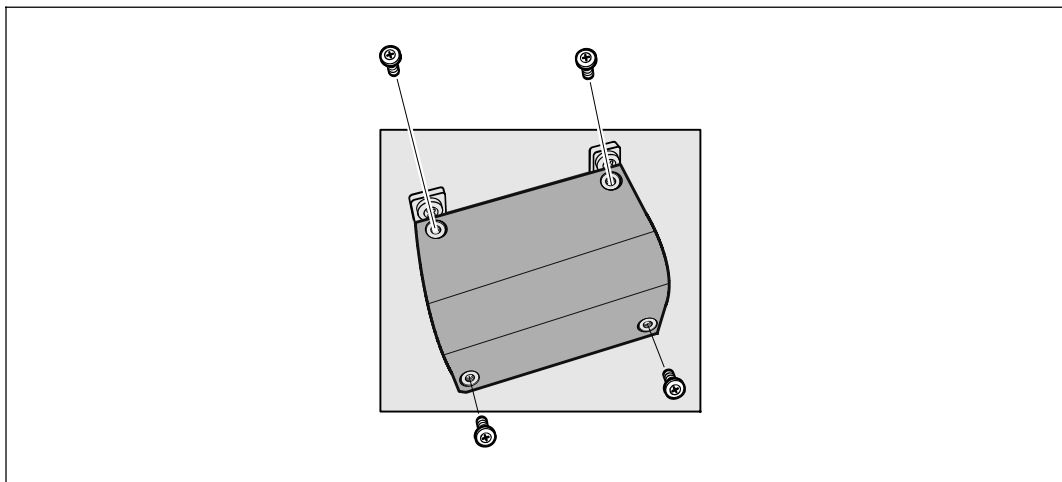


図 21. 端子台カバーの取り外し方法

- 3 入力端子用のつまみを取り外します。
端子穴は、19.0 mm (3/4インチ) または25.4 mm (1インチ) のサイズに適応。
- 4 電線管から入力用電線を引き出し、約2 ft (0.5m) ほど入力用電線を電線管からむき出しにしてください。柔軟性のある金属の接続金具を、導線の端に取り付けます。

- 5 配線導入口から電線管を入れ、電線管付属品をパネルに取り付けます。各ワイヤーの末端から0.5" (1.5 cm) の絶縁をはぎ取ります。
- 6 図 22および表 1に従い、入力線およびアース線を端子台に取り付けてください。

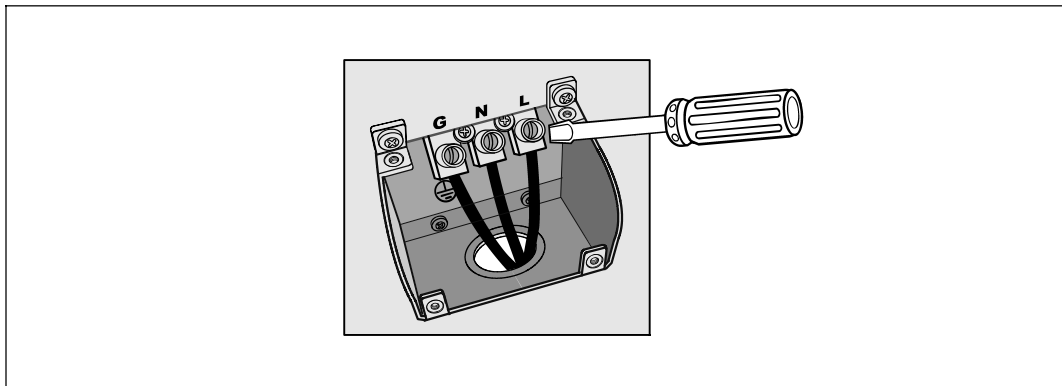


図 22. UPS入力端子台

表 1. UPS配線仕様

配線機能	端子位置	UPSのワイヤーの機能	ワイヤー端子サイズ定格*	締めるトルク
入力	1	入力端子	5.26–16 mm ² (10–6 AWG)	2.26 Nm (20 lb in)
	2	L2/中性 In		
	3	L1 In		

* 最低5.26 mm² (10 AWG) 75°C の銅線を使用してください。

- 7 端子台カバーを取り外します。
- 8 次のセクションの「UPS初期起動」へ進みます。


UPSの初期起動

UPSの起動方法：


- 1 内蔵バッテリーが接続されていることをご確認ください。
- 2 オプションの外付けバッテリーモジュールがインストールされている場合、外付けバッテリーモジュールがUPSに接続されていることをご確認ください。
- 3 すべての負荷セグメントのブレーカーがオンの位置にあるか確認してください。


- 4 **3750W/208V型用のみ。**UPSへの電源入力には、最低30Aの逆流過電流保護があるか確認してください。

UPSの電源コードを電源コンセントに差し込みます。

UPSの前方パネルのディスプレイが明るくなります。Dellの起動画面がUPSステータス要約画面に変わります。UPSの前方パネルのディスプレイは、点滅のスタンバイアイコンを示しています。 

- 5 **配線接続入力型のみ。**メインの商用ブレーカーのスイッチを入れます。


UPSの前方パネルのディスプレイが明るくなります。Dellの起動画面がUPSステータス要約画面に変わります。UPSの前方パネルのディスプレイは、点滅のスタンバイアイコンを示しています。 

- 6 UPSの前方パネルにある  ボタンを押します。

起動が完了すると、ステータスアイコンがUPS作動モードに基づいた適切なアイコンに変わります 3 (37ページの(0 "Table 2")を参照)。

- 7 アクティブになっているアラームや通知を確認するには、UPSステータス要約画面の > ボタンを押します。続ける前に、アクティブになっているアラームを解消してください。67ページの「トラブルシューティング」をご参照ください。

アクティブになっているアラームがない場合は、「アクティブアラームなし」と表示されたメッセージが現れます。

- 8 UPSが正常に作動し、負荷電力があることを示す「正常」アイコン  が、UPSのステータス要約画面に現れていることをご確認ください (3 (37ページ) を参照)。


- 9 オプションの外付けバッテリーモジュールが取り付けられている場合は、「外付けバッテリーモジュール用のUPSの設定方法 (53ページ) 」をご参照ください。


- 10 その他の工場出荷時設定の変更は、32ページの「操作方法」をご参照ください。


- 11 オプションのREPOを取り付けられている場合は、REPO機能テストを行ってください：


REPOの外部スイッチを有効にします。UPSのディスプレイのステータスが変わったことをご確認ください。

REPOの外部スイッチを無効にし、UPSを再起動します。

 **注記：** Dellでは、日付および時間の設定を推奨いたします。

 **注記：** 初起動では、UPSは、入力ライン周波数 (入力周波数自動検出は初期設定では有効になっています) に従い、システム周波数を設定します。初起動後は、出力周波数設定を手動で再び有効にするまで、自動検出は無効です。

 **注記：** 初起動で、入力自動検出は、初期設定では有効です。次の起動後は、出力圧力設定が手動で再び有効にするまで、自動検出は無効です。




 **注記：** 内蔵バッテリーは、4時間以内で90%の容量まで充電されます。ただし、Dellでは、取り付け後、あるいは長期使用しなかった後は、48時間、バッテリーを充電することを推奨いたします。オプションの外付けバッテリーモジュールが取り付けられている場合は、14 (66ページ) に記載の再充電時間をご参照ください。

操作

この章には、以下のUPSの使用方法に関する情報が含まれています：

- UPSの起動およびシャットダウン
- コントロールパネルおよび表示機能
- イベントログの読み込み
- UPSのモード間の移行
- 電力対策設定
- 過負荷の際における行動
- 負荷セグメント、バッテリー設定、および自動再起動の設定

UPSの起動およびシャットダウン

 **注記：**  ボタンは、UPS出力のみをコントロールします。 ボタンは、UPSに接続されている機器には影響を与えません。


UPSの起動およびシャットダウンを行うには、以下をご参照ください：


- 32ページの「UPSの起動方法」
- 機器が最大効率で作動するよう、バッテリーは最低5-33年に1度、交換してください
- 33ページの「UPSのシャットダウン」

UPSの起動方法


以下の方法でUPSを起動します：

- 1 UPSの電源コードが差し込まれていることを確認します。
- 2 UPSが接続されている外部電源のスイッチを入れます。


UPSの前方パネルのディスプレイが明るくなります。Dellの起動画面がUPSステータス要約画面に変わります。UPSの前方パネルのディスプレイが「スタンバイ」モードアイコンを表示します。


- 3 UPSのフロントパネルにある  ボタンを押します。

起動が完了すると、ステータスアイコンがUPS作動モードに基づいた適切なアイコンに変わります表 3 (37ページの(0 "Table 2")を参照)。



- 4 アクティブになっているアラームや通知を確かめるには、UPSステータス要約画面の > ボタンを押します。続ける前に、アクティブになっているアラームを解消してください。67ページの「トラブルシューティング」をご参照ください。
アクティブになっているアラームがない場合は、「アクティブアラームなし」と表示されたメッセージが現れます。
- 5 UPSが正常に作動し、負荷電力があることを示す「正常」アイコン  がUPSのステータス要約画面に現れていることをお確かめください。



バッテリーモードでのUPSの起動

 **注記：**この機能を使用する前に、UPSを外部電力によって作動させて、最低一度は出力を有効にしておいてください。

 **注記：**起動の際は、外部電力は存在しません。

UPSをバッテリーモードで起動する方法：

- 1 UPSが警告音を発するまで、UPSのフロントパネルにある  ボタンを押します。
UPSの前方パネルのディスプレイが明るくなり、UPSが起動を開始します。
UPSは、スタンバイモードからバッテリーモードへ、周期的にモードの移行を繰り返します。バッテリーモードアイコン  がUPSステータス要約画面に現れます。UPSが、お使いの機器に電力を供給します。


 **注記：**  ボタンを3秒以上押さない場合、UPSは負荷を供給しません。



- 2 アクティブになっている警告や通知を確認するには、> ボタンを押します。
外部電力がないことを示す「UPSバッテリーモード」通知は無視します。続ける前に、アクティブになっているその他のアラームを解除します。67ページの「トラブルシューティング」をご参照ください。アラームを修正後、必要であれば再起動します。

<および> ボタンを3秒間同時に押すことで、バッテリーの始動（次の起動で外部電力を必要とする）を防ぐことができます。バッテリー始動を無効にすることができます。44ページの「バッテリーモードによる始動の設定」をご参照ください。

UPSシャットダウン

以下の方法でUPSをシャットダウンします：

- 1 フロントパネルにある  ボタンを3秒間押します。
UPSがピーという音を出し始めます。UPSがスタンバイモードに変わります。

 **注記：**  ボタンを押し3秒以内に離すことで、UPSを最初の操作状態に戻すことができます。

- 2 UPSが接続されている外部電源のスイッチを切ります。
外部電力を取り外すと、その後UPSは10秒以内に完全にシャットダウンします。

コントロールパネルの機能

UPSには、ボタンを3つ備えた液晶ディスプレイがあり、2色のバックライトを発します。標準のバックライトは、青の背景に白のテキストで、ディスプレイを明るくするのに使われます。UPSに重要な警告がある場合、バックライトのテキストは濃い琥珀色に変わり、背景は琥珀色に変わります。図 23を参照してください。

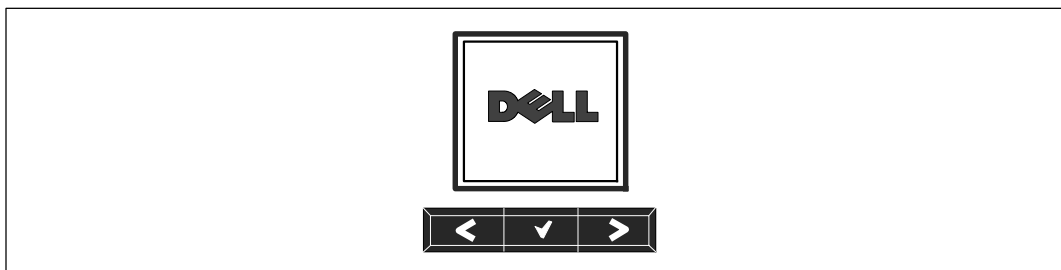


図 23Dell オンライン式ラック型UPSコントロールパネル

コントロールパネルには3つのボタンがあります：

- < 上方または後方へスクロール
- ✓ 選択
- > 下方または前方へスクロール

表 2は、LCDコントロールボタンの機能を示しています。

表 2. コントロールボタン機能

コントロールボタン	機能
< 1秒間以内押します	前のメニューにスクロールバックまたはスクロールアップします。
< 1秒間以上押します	コマンドを始動、または設定を変更せずに、メニューの項目をひとつ分戻します。
✓ 1秒間以内押します	変更するメニュー、またはオプションを選択します。
✓ 1秒間以上押します	編集した設定を保存します。
> 1秒間以内押します	次のメニューオプションへスクロールフォワード、またはスクロールダウンします。
< > 両方のボタンを3秒間押します	次の動力サイクルまで、一時的にバッテリーの起動機能を無効にします。バッテリー始動が無効であることを示すブザーが1秒間ピーという音を発します。
< ✓ > 3つのすべてのボタンを5秒間押します	ショートカットを使い、初期言語を英語に設定します。ブザーが1秒間ピーという音を発し、設定が英語に変更されたことを示します。

オプションの選択方法：

- 1 設定をスクロールする際、現在の設定が各選択で表示されます。
- 2 オプションを選択するには、▼ボタンを押します。
選択した際、オプションの現在の設定が点滅します。
- 3 使用可能なオプションに切り替えるには、◀または▶ボタンを使います。
- 4 もう一度▼ボタンを1秒間押し続け、新しいオプションを設定します。
オプションが点滅を停止します。

言語の変更

言語選択は、ユーザー設定で選択することができます。利用可能な言語情報に関しましては、表6（42ページ）をご参照ください。

ディスプレイ機能

UPSは、前面パネルディスプレイによって、UPSそれ自体、負荷ステータス、イベント、測定結果、識別表示、設定などの便利な情報を提供します。

起動画面

起動中、Dellのロゴが初期画面に現れます。この起動画面は5秒間表示され、その後、初期画面であるUPSステータス要約画面に変わります。

15分間ボタンが押されず、ユーザーがその他の画面をロックしていないければ、ディスプレイは自動的にUPSステータス要約画面に戻ります。ステータス要約画面に戻ったら、◀ボタンを1秒間押し、メニュー選択へ戻ります。メインメニューからUPSステータスを選択することで、ステータス要約画面を含むUPSステータスメニュー画面のすべてをスクロールすることができます。

画面のロック

画面をロックするには、✓ ボタンを押します。現在の表示がロックされ、中断時間後でも自動的に初期画面に戻りません。画面がロックされている際、キーの画像が、UPSステータス要約画面のステータスアイコンの左側に現れます。図 24を参照してください。

いずれかのボタンを押すことで、通常のボタン機能に戻り、画面のロックを解除し、ロックの記号が消えます。

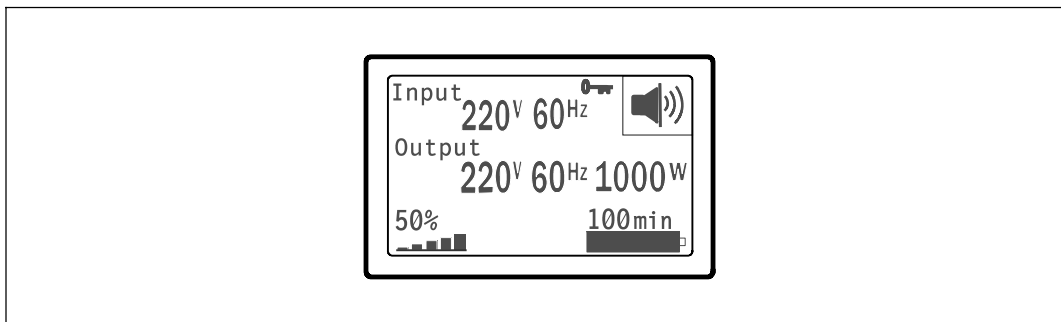


図 24. 画面のロック

同時のリアルタイムによるデータ更新がある画面のみが、ロック可能です。適用できる画面には、ステータス要約画面、測定画面、アクティブ警告、バッテリーステータス画面などがあります。

UPSステータス

UPSステータスは、個々の画面で以下の情報を提供します：

- モードや負荷などのステータス要約
- 通知や警告がある場合は、それらのステータス
- 状態や充電レベルなどのバッテリーステータス

UPSステータス要約画面の例は、表 3をご参照ください。各ステータス要約画面の上部右端にあるステータスアイコンは、UPSのステータスやモードを伝えます。

基本的な作動モードは以下の通りです：

- 正常モード
- 高性能モード
- バッテリーモード
- バイパスモード
- スタンバイモード

表 3. ステータス要約画面

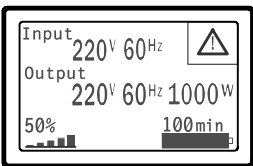
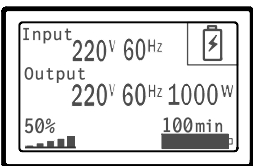
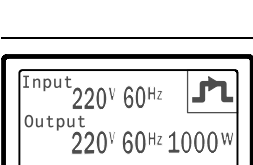
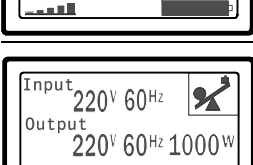
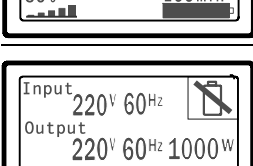
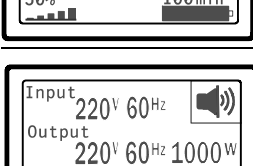
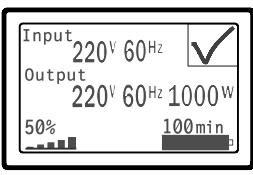
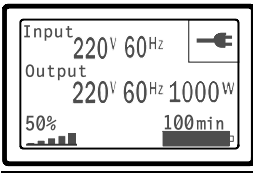
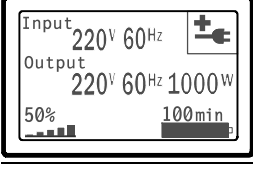
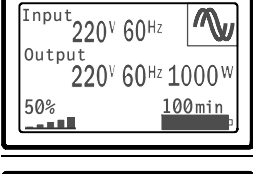
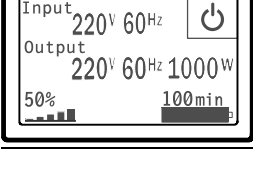
ステータス要約画面	説明
 <p>The status screen shows input/output specifications (220V 60Hz, 1000W), a 50% battery level bar, and a 100min timer. A warning triangle icon is in the top right corner.</p>	<p>UPSの致命的故障</p> <p>UPSが故障モードです。ステータスアイコンおよび背景が点滅します。</p>
 <p>The status screen shows input/output specifications, a 50% battery level bar, and a 100min timer. A battery icon with a lightning bolt is in the top right corner.</p>	<p>バッテリーモード</p> <p>ステータスアイコンおよびアイコンの背景が点滅します。</p> <p>警告音（0.5秒間オン/4.5秒間オフ）を発し、同時にバッテリーモードに切り替わります。</p> <p>外部電力が回復したら、バッテリーが再充電している間、UPSが「正常」モード作動に変わります。</p>
 <p>The status screen shows input/output specifications, a 50% battery level bar, and a 100min timer. A bypass switch icon is in the top right corner.</p>	<p>バイパスモード</p> <p>スタティックバイパススイッチを通じて、UPSはバイパスモードで動作しています。ステータスアイコンおよびアイコンの背景が点滅します。バッテリーモードは使用することができません。</p>
 <p>The status screen shows input/output specifications, a 50% battery level bar, and a 100min timer. A warning icon with a lightning bolt is in the top right corner.</p>	<p>UPS過負荷状態</p> <p>ステータスアイコンおよびアイコンの背景が点滅します。</p>
 <p>The status screen shows input/output specifications, a 50% battery level bar, and a 100min timer. A battery icon with a lightning bolt and a diagonal slash is in the top right corner.</p>	<p>不良バッテリーを検出、またはバッテリーが切断</p> <p>ステータスアイコンおよびアイコンの背景が下部にあるバッテリー記号の外殻と共に点滅します。</p>
 <p>The status screen shows input/output specifications, a 50% battery level bar, and a 100min timer. A speaker icon is in the top right corner.</p>	<p>UPSの一般的なアクティブ警告</p> <p>ステータスアイコンおよびアイコンの背景が点滅します。</p>

表 3. ステータス要約画面 (続く)

ステータス要約画面	説明
	<p>バッテリーテストステータス</p> <p>UPSがバッテリーテストを行っている際のステータスです。</p>
	<p>正常モード</p> <p>外部電力からUPSが正常モードで作動しています。UPSが必要に応じバッテリーを監視し、充電を行い、フィルター処理による電力を供給し、お使いの機器を保護します。</p>
	<p>高性能モード</p> <p>UPSは高性能モードで作動しています。</p>
	<p>コンバーターモード</p> <p>UPSはコンバーターモードで作動しています。</p>
	<p>スタンバイモード</p> <p>UPSの電源がオフで、コンセントにつながったままの場合は、UPSはスタンバイモードであり、外部電力が接続された機器に電力を提供します。UPSは負荷に対応しませんが、コマンドによって負荷を受けることができます状態になります。</p>

通知や警告がアクティブの場合のみ、通知および警告画面が表示されます。アクティブになっている通知や警告のそれぞれに対し個別の画面が存在します。アクティブになっている通知や警告がない場合は、UPSステータス要約画面およびバッテリーステータス画面の間の単独の画面に「アクティブ警告なし」のメッセージが現れます。複数の通知や警告がある場合、通知や警告の各画面をスクロールし、最初のバッテリーステータス画面に進みます。


 **注記：** イベントはステータス要約画面には表示されません。 イベントログでのみ表示されます。

表 4は、使用可能なバッテリーステータス画面を示しています。一回に使用できるバッテリーステータスは1つのみです。

表 4. バッテリーステータス画面

バッテリーステータス画面	説明
バッテリー充電中	バッテリーは、定電流モードで充電されています。
バッテリー浮動充電中	バッテリーは、定電圧モードで充電されています。
バッテリー休止中	バッテリーは接続されていますが、充電、または放電されていません。 (これは、正常な充電サイクルの一貫です。)
バッテリー放電中	バッテリーが放電しています。
バッテリー未接続	バッテリーが切断されているため、使用不可となっています。
充電器使用不可	バッテリーの充電器がオフになっています。設定メニューから、充電器設定を行うことができます (46ページを参照)。

イベントログ

イベントログは、最高50件のイベントを記録することができます。最新のイベントから始まるイベント画面をスクロールすることができます。

 **注記：**日付の形式は、言語選択によって異なります。

各イベント画面の最初の列には、イベントが発生した日付 (月月/日日/年年年) および時間 (時時:分分:秒秒) が含まれます。2番目の列には、イベントの種類やコードが含まれます。イベントの説明は3番目の列から始まり、4番目の列まで続きます。下部の右端にあるイベント画面は、2つの数字を表示します: イベントログの回数の総計に続き、イベントログの発生順序。

イベントログがない場合は、イベント画面で、「イベントログなし」と表示されます。

49ページの「イベントログの読み込み」をご参照ください。

測定結果

測定結果画面により、以下の項目について便利な測定結果情報が提供されます。

- 出力ワットVA、電流、力率、電圧、周波数
- 入力電圧および周波数
- バッテリー電圧および充電比率
- 残存する瞬時ヘッドルームワット数
- 最大ヘッドルームワット数（ピーク需要の際、負荷をサポートするのに利用可能な残存ワット数、ピーク需要の日付およびタイムスタンプを含む）
- 最大消費ワット数（UPSに必要な最大電力量、ピーク需要の日付およびタイムスタンプを含む）
- 現在のキロワット時消費量（過去の時間で平均化されたUPSのキロワット時需要量）
- 累積キロワット時消費量（最後のリセット以降の総キロワット時使用量、日付およびタイムスタンプを含む）

コントロール画面

表 5は、使用可能なコントロール画面を示しています。


表 5. コントロール画面

コントロール画面	説明
バイパスへ移行	UPSシステムが内部バイパスモードへ移行します。 「バイパスモードへ移行」コマンドを送る際、メッセージは画面に即座に現れ、5秒間に表示されます：手動バイパスコマンド。その後、オプションは「正常モードへ移行」に変わります。 「バイパスモードへ移行」コマンドが出された場合、画面は5秒間で「正常モードコマンド送信済み」メッセージを直ちに表示します。その後、オプションは「バイパスモードへ移行」に変わります。
バッテリーテスト	バッテリーテストのスケジュール：はい バッテリーテストをキャンセル：なし バッテリーの手動テストを始めます。 62ページの「バッテリーテストの実行方法」をご参照ください。
リセットエラー状態	警告をリセット：はい いいえ 不良バッテリーを検出、またはDCバスOV/UVなど、ラッチされた警告を手動でクリア。 不良バッテリー警告もアクティブの場合は、バッテリーテストのステータスを「テスト未実行」にリセットします。
負荷セグメント	負荷セグメント 1: オン オフ 負荷セグメント 2: オン オフ このオン/オフコマンドは、自動開始遅延時間および自動バッテリー運転シャットダウン設定によって行われる自動負荷セグメントオン/オフ制御を無効にします。50ページの「負荷セグメント設定」をご参照ください。
初期設定に戻す	初期設定に戻す： はい いいえ スタンバイモードでのみ使用可能。 初期設定に戻す方法： <ul style="list-style-type: none">• ユーザー設定できるEEPROM 設定のすべてを、工場出荷時設定に戻します• 保留のオン/オフコマンドをすべてリセットします• イベントログを削除し、すべてのタイムスタンプをリセットします• バッテリーテストステータスをリセットします• 自己診断テストを実行します

識別表示

識別表示画面は、以下のUPS情報を表示します。

- 機種および型名
- 品番
- シリアル番号
- UPSファームウェア
- ネットワークマネジメントカードファームウェア

 **注記：**ネットワークマネジメントカードがインストールされている場合のみ、NMCファームウェア画面が表示されます。Dell ネットワークマネジメントカード（57 ページ）をご参照ください。

設定

使用することができるオプションのみが表示されます。

ユーザー設定は、初期設定では保護されていません。ユーザーパスワード設定を通じて、パスワードを有効にすることができます。

表 6はユーザーが変更できるオプションを表示しています。

表 6. 設定

説明	使用できる設定	初期設定
言語の変更	[英語] [フランス語] [ドイツ語] [スペイン語] [日本語] [簡体字中国語] [ロシア語] [韓国語] [繁体字中国語]	英語
ユーザーパスワード	[有効] [無効] 有効の場合、初期設定のパスワードはUSERです。 注記： 正しくないパスワードを入力すると、「パスワードが違います」と書かれたメッセージが現れます。いずれかのボタンを押し、パスワード画面に戻り、パスワードを再度入力します。	無効
警報音	[有効] [無効] 注記： 警報音を無効にした場合、直ちに反映され、動力サイクルの後でも、無効のままとなります。これは、ボタン押すことで、警報音が一時的に消音になるミュート機能とは異なりますが、新しい警告が引き起こされると、再び有効になります。	有効

表 6. 設定 (続く)

説明	使用できる設定	初期設定
日付/時間設定	<p>月、日、年、時間、分、および秒を設定します</p> <p>日付：月/月/日/日/年/年/年</p> <p>時間：時時：分分：秒秒</p> <p>注記：日付の形式は、言語選択によって異なります。</p> <p>注記：時間は24時間方式です。</p>	<p>01/01/2009</p> <p>12:00:00</p>
シリアルポートによる制御コマンド	<p>[有効] [無効]</p> <p>有効の場合、制御コマンドは、シリアルポート、USBポート、またはオプションカードを通じたコマンドです。</p> <p>無効の場合、設定および負荷制御コマンドがLCDのみに制限されます。</p>	有効
出力電圧	[200V] [208V] [220V] [230V] [240V] [自動検出]	自動検出
出力周波数	[50Hz] [60Hz] [自動検出]	自動検出
過負荷警告レベル	<p>[10%] [20%] [30%]...[100%]</p> <p>100%の場合、UPSは負荷>100%で出力過負荷警告を出します。</p> <p>注記：初期設定により、出力過負荷レベル1は100%に設定され、LCD設定メニューを通じて、10%単位で、10%から100%まで設定することができます。これを行うことで、UPSが定格容量限界に達する前に、顧客へ警告を発することができます。</p>	100%
電力削減	<p>[正常] [高性能] [コンバーター]</p> <p>48ページの「電力対策設定」をご参照ください。</p>	高性能
自動開始遅延時間	<p>[オフ] [0秒] [1秒] [2秒]...[32767秒]</p> <p>50ページの「負荷セグメント設定」をご参照ください。</p>	0秒
自動バッテリー運転シャットダウン	<p>[オフ] [0秒] [1秒] [2秒]...[32767秒]</p> <p>50ページの「負荷セグメント設定」をご参照ください。</p>	オフ

表 6. 設定 (続く)

説明	使用できる設定	初期設定
バッテリー運転開始	[有効] [無効] 注記： バッテリー運転開始は初期設定では無効になっており、UPSが外部電力から電力供給を受け、スタンバイモードになるまで、無効のままになります。UPSがいったん外部電力から起動すると、バッテリー運転開始機能が自動的に有効になります。ユーザーがこれを設定した後は、有効のままになります。	有効
バッテリー節約モード	[無効] [10%] [20%] [30%]...[100%] UPSがバッテリーモードで作動し、出力電力が選択したレベル以下の場合、UPSの出力は5分以内にオフになります。	無効
バッテリー運転通知遅延時間	[0] [1秒] [2秒]...[99秒] UPSがバッテリーの放電を開始した後、特定の秒数内で、「UPSバッテリーモード」通知を出します。	0秒
入力配線不具合警告	[有効] [無効]	低圧型では有効； その他すべての型は無効
バイパス圧力下限値	公称の[-6%] [-7%]...[-20%] 測定されたバイパス圧力レベルが、公称出力圧力(-15%)以下の場合、バイパス操作は、無効になります。 注記： バイパス制限設定は、バイパス圧力下限値設定を無効にします。	公称の-15%
バイパス圧力上限値	公称の[+6%] [+7%]...[+20%] 測定されたバイパス圧力レベルが、公称出力圧力(+10%)以上の場合、バイパス操作は、無効になります。 注記： バイパス制限設定は、バイパス圧力上限値設定を無効にします。	公称の+10%

表 6. 設定 (続く)

説明	使用できる設定	初期設定
バイパス制限	<p>[常時] [なし] [バイパス無効]</p> <p>常時の場合は、バイパス操作は以下の際可能となります：</p> <ul style="list-style-type: none"> • バイパス圧力>バイパス圧力下限値に設定された値 • バイパス圧力<バイパス圧力上限値に設定された値 • バイパス周波数>(公称周波数 -3 Hz) • バイパス周波数<(公称周波数 +3 Hz) • 非同期移動が非同期移行用に設定された値によって無効の際、インバーターはバイパスと同期化します <p>「なし」の場合、バイパス操作は常に可能です；圧力および周波数制限は使用されません。</p> <p>バイパスが無効の場合、バイパス操作は禁止されています。</p>	常時
同期化ウィンドウ	<p>[同期無効] [±0.5 Hz] [±1.0 Hz] [±1.5 Hz] [±2.0 Hz] [±2.5 Hz] [±3.0 Hz]</p> <p>±3.0 Hz の場合、インバーター操作では、バイパス周波数が公称出力周波数から3 Hz 以下の際、インバーターがバイパスと同期化します；それ以外は、インバーターは公称周波数に変わります。バイパスモードでは、同期画面は常に±3 Hzです。</p> <p>注記：同期無効状態では、バイパス操作が可能な場合、バイパスモードで操作している際のみ、UPSは同期化します。</p>	±3.0 Hz
非同期移動	<p>[有効] [無効]</p> <p>有効の場合、バイパスへの非同期移行が可能です。</p> <p>無効の場合、バイパスへの非同期移行は不可です。</p> <p>注記：バイパス制限設定は、非同期移行設定を無効にします。</p>	有効
外付けバッテリーモジュール (外付けバッテリーモジュール)	<p>[0] [1]</p> <p>「外付けバッテリーモジュール用のUPSの取り付け方法」(53ページ)をご参照ください。</p>	0

表 6. 設定 (続く)

説明	使用できる設定	初期設定
充電器	[有効] [無効] 有効の場合、バッテリーは正常に充電されます。 無効の場合、バッテリー充電器の電源はオフになっています。	有効
再起動に必要なバッテリー充電度 (%)	[0 %] [10%] [20%] [30%]...[100%] 有効の場合、バッテリー充電容量が選択したレベルに達した際、自動再起動が実行されます。0に設定されている場合、機能は無効です。	0 %
低バッテリー警告	[即時] [2分] [3分] [5分] 値を選択した場合、バックアップ設定時間量（おおよそ）がバッテリー内に残っている場合、低バッテリー警告が始動します。 即時の場合、「UPS/バッテリーモード」通知と同時に低バッテリー警告が有効になります。	3分
自動バッテリーテスト	[有効] [無効] 54ページの「自動バッテリーテストの実行」をご参照ください。	有効
最大消費電力リセット	[いいえ] [はい] 「いいえ」の場合、実行されません。 「はい」の場合、最大消費電力値は削除され、この統計値の日付およびタイムスタンプは、現在の日付および時間に設定されます。	なし
累積消費キロワット時リセット	[いいえ] [はい] 「いいえ」の場合、実行されません。 「はい」の場合、累積消費キロワット時の値は削除され、この統計値の日付およびタイムスタンプは、現在の日付および時間に設定されます。	なし

表 6. 設定 (続く)

説明	使用できる設定	初期設定
最大ヘッドルームワットリセット	<p>[[いいえ] [はい]</p> <p>「いいえ」の場合、実行されません。</p> <p>「はい」の場合、最大ヘッドルームワット値は削除され、この統計値の日付およびタイムスタンプは、現在の日付および時間に設定されます。</p>	なし
イベントログ削除	<p>「イベント数総計」の後の数字は、現在において保存しているイベントログの総数を表示します。(✓)ボタンを1秒間押し、イベントカウントをゼロにリセットし、記録をクリアにします。</p>	—
液晶ディスプレイのコントラスト	<p>[-5], [-4], [-3], [-2], [-1], [+0], [+1], [+2], [+3], [+4], [+5]</p> <p>LCDコントラストは調整可能で、調整有効範囲は-5から+5までです。この範囲は、最大調整範囲であり、コントロールパネルの画像表示でテキストと背景にコントラストを与えることができます。</p>	[+0]

UPSのモード間の移行


型間の移行は次の通りです：

- 正常モードからバイパスモードへの移行
- バイパスモードから正常モードへの移行

正常モードからバイパスモードへの移行

正常モードからバイパスモードへの移行方法：


- 1 <を1秒間押し、メインメニュー選択へ戻り、>ボタンを使ってコントロールメニューへスクロールダウンします。
- 2 ✓ボタンを押し、コントロールメニューを表示します。
- 3 「バイパスモードへ移行」を選択します。

画面上のテキストが、「手動バイパスコマンド送信済み」に変わります。バイパスモードアイコンが点滅し、バイパスモードであることを示します。

バイパスモードから正常モードへの移行


バイパスモードから正常モードへの移行方法：

- 1 <を1秒間押し、メインメニュー選択へ戻り、>ボタンを使ってコントロールメニューへスクロールダウンします。
- 2 ✓ボタンを押し、コントロールメニューを表示します。
- 3 「正常モードへ移行」を選択します。

画面上のテキストが、「正常コマンド送信済み」に変わります。正常モードアイコン  が点滅し、正常モードであることを示します。

電力対策設定

高性能設定では、UPSはバイパスモードで正常に作動し、停電の際は、 ≤ 10 ms以内にインバータへ転送し、外部電力の復旧後、1分以内にバイパスモードへ戻ります。UPSがバイパスモードに移行した際、バイパスモードアイコンボックスがUPSステータス要約画面に現れます。

 **注記：**高性能操作は、安定電力の1分後に使用することができます。

電力対策設定の方法：

- 1 <ボタンを1秒間押し、メインメニュー選択へ進み、>ボタンを使って、設定メニューへスクロールダウンします。
- 2 ✓ボタンを押し、設定メニューを表示します。
- 3 >ボタンを使って、「電力対策」へスクロールし、✓ボタンを押します。
選択した際、オプションの現在の設定が点滅します。
- 4 <および>ボタンを使って、高性能、正常、またはコンバータを選択します。
初期設定は「高性能」です。
- 5 ✓ボタンを押し、確定します。

イベントログの読み込み

ディスプレイを通じてイベントログを読み込む方法：

- 1 < ボタンを1秒間押し、メインメニュー選択へ進み、イベント ログメニューへ > を使ってスクロールダウンします。
- 2 ✓ ボタンを押し、イベントログリストを表示します。
- 3 < ボタン、または > ボタンのどちらかを使用し、表示されたイベントや通知、警告をスクロールします。
- 4 メインメニューに戻る場合は、< を1秒間押します。イベントログが表示されます。
- 5 > ボタンを押します。UPSステータス画面が表示されます。

過負荷の際における行動

UPSがどのように過負荷状態に対処しているかに関する説明につきましては、表7をご参照ください。

表7. 過負荷における行動

過負荷 重度	負荷レベル	外部電力モード	バイパス/高性能 モード	バッテリー運転
レベル1	負荷100%か ら101%	過負荷警告のみ、および負荷 無制限対応	過負荷警告のみ、お よび負荷無制限対応	過負荷警告のみ、低 バッテリーシャット ダウンレベルに達する まで負荷対応
レベル2	負荷102%か ら110%	12秒 (±1秒) 後、バイパス モードへ移行 バイパスモードが使用不可の 場合、12秒 (±1秒) 後、故障 モードへ移行	2分 (±1秒) 以内に故 障モードへ移行	12秒 (±1秒) 後、ま たは低バッテリー シャットダウンレベ ルに達するまで、故障 モードに移行
レベル3	負荷>110%	直ちにバイパスモードへ移行 バイパスモードが使用不可の 場合、300ms から1秒以内 に、故障モードへ移行	300ms から1秒以内 に、故障モードへ移 行	300ms から1秒以内 に、故障モードへ移行

負荷セグメントの設定

負荷セグメントは、Dell UPS制御ソフトウェアや、Dell ネットワークマネジメントカード、あるいはLCDディスプレイによって制御することができる一連のレセブタクルであり、お使いの機器を順序正しくシャットダウンや起動を行います。例えば、停電の際、その他の機器の電源を切っている間、機器の主な要素を作動することができます。この機能によって、バッテリー電力を保存することができます。

各Dell オンライン式ラック型型には、設定可能な負荷セグメントが2つあります。負荷セグメントの箇所に関しましては、15ページの「UPS後方パネルの識別」をご参照ください。

パワーマネジメントソフトウェアで負荷セグメントを管理する場合は、パワーマネジメント

ソフトウェア取扱説明書で詳細をご確認ください（最新情報は、ソフトウェアCD、または www.dell.comを参照）。


ディスプレイを通じて負荷セグメントを管理

ディスプレイを通じて負荷セグメントを管理する方法：

- 1 <を1秒間押し、メインメニュー選択へ戻り、>ボタンを使ってコントロールメニューへスクロールダウンします。
- 2 ✓ ボタンを押し、コントロールメニューを表示します。
- 3 >ボタンを使って、負荷セグメントへスクロールします。
- 4 ✓ ボタンを押します。
選択した際、オプションの現在の設定が点滅します。
- 5 <ボタンおよび>ボタンを使って、希望の負荷セグメントを選択します。
- 6 ✓ ボタンを使って、希望の負荷セグメントをオンまたはオフに設定します。
- 7 ✓ ボタンを押し、確定します。
- 8 該当する場合、その他の負荷セグメントを設定します。

自動開始遅延時間の設定


シャットダウンした場合、外部電力が復旧後、以下の方法で、負荷セグメントが自動的にオンになるよう設定することができます：


-  ボタン
- 自動再起動オプションのある外部コマンド
- バッテリー不足電圧状態
- 自動バッテリー運転シャットダウンコマンド

各負荷セグメントに対する再起動遅延時間を指定することができます：即時再起動の場合は、ゼロ秒を選択（0sは初期設定値）、特定の時間差の後に起動する場合は、1~32767秒を選択、あるいはオフを選択。

各負荷セグメントに対する再起動遅延時間の設定方法：

- 1 < ボタンを1秒間押し、メインメニュー選択へ進み、> ボタンを使って、設定メニューへスクロールダウンします。
- 2 ✓ ボタンを押し、設定メニューを表示します。
- 3 > ボタンを使って、自動開始遅延時間へスクロールし、✓ ボタンを押します。
選択した際、オプションの現在の設定が点滅します。
- 4 < ボタンおよび > ボタンを使って、一つの負荷セグメントに対する再起動遅延時間を設定します。
- 5 ✓ ボタンを押し、確定します。
- 6 該当する場合、その他の負荷セグメントに対する再起動遅延時間を設定します。
- 7 ✓ ボタンを押し、確定します。

 **注記：**コントロールメニューによって発行された負荷セグメントのオン/オフコマンドは、負荷セグメントに対するユーザー設定を無効にします。

 **注記：**単独の負荷セグメント遅延時間は、両方の出力に適用されます。ただし、セグメント1とセグメント2を閉じる間に、追加で組み込まれた1秒間の時間差があります。「オン」コマンドが二つのセグメントに対し同時に発行された場合、この時間差は常に存在します。

自動バッテリー運転シャットダウン設定

オフ（初期設定）に設定されている場合、**⏻**ボタン、外部コマンド、あるいはディスプレイ（コントロール>負荷セグメント）が手動でコマンドを出す際のみ、負荷セグメントはオフになります。

ゼロ秒（0s）に設定されている場合は、UPSバッテリーモードが有効の際、負荷セグメントは自動的にオフになります。

値を選択している場合、UPSがバッテリーモードで作動している間、選択した遅延時間後、負荷セグメントは自動的にオフになりますが、遅延時間に達する前に外部電力が復旧したら、シャットダウンはキャンセルされます。

各負荷セグメントに対するシャットダウン時間の設定方法：

- 1 **◀**ボタンを1秒間押し、メインメニュー選択へ進み、**▶**ボタンを使って、設定メニューへスクロールダウンします。
- 2 **✓**ボタンを押し、設定メニューを表示します。
- 3 **▶**ボタンを使って、自動バッテリー運転シャットダウンオプションへスクロールし、**✓**ボタンを押しします。

オプションが表示され、選択した際、現在の設定が点滅します。

- 4 **◀**ボタン、または**▶**ボタンを使って、一つの負荷セグメントに対するシャットダウン遅延時間を設定します。
- 5 **✓**ボタンを押し、確定します。
- 6 該当する場合、その他の負荷セグメントに対するシャットダウン遅延時間を設定します。
- 7 **✓**ボタンを押し、確定します。

バッテリー設定

自動バッテリーテストや自動再起動設定を実行するかどうかなど、取り付けした外付けバッテリーモジュール用のUPS設定を行います。

UPSの設定 外付けバッテリーモジュール

UPSが外付けバッテリーモジュールに設定されていない場合、UPSは、UPSのフロントパネル上やリモートソフトウェアへ、バッテリー残存時間を報告します。
時期尚早に、シャットダウン警告を受ける場合もあります。
パワーマネージメントソフトウェアを使って最大バッテリーランタイムを確かめるには、外付けバッテリーモジュールのUPS設定を行います：

- 1 < ボタンを1秒間押し、メインメニュー選択へ進み、> ボタンを使って、設定メニューへスクロールダウンします。
- 2 ✓ ボタンを押し、設定メニューを表示します。
- 3 > ボタンを使って、外付けバッテリーモジュールオプションへスクロールし、✓ ボタンを押します。

バッテリー数値が点滅し始めます。

- 4 < ボタン、および> ボタンを使って、バッテリー数値を設定します。

設定	設定
UPSのみ (内蔵バッテリー)	0 (初期設定)
UPS + 1 外付けバッテリーモジュール	1

注記：ランタイムは、存在する負荷レベルや外付けバッテリーモジュールが設定されているかに基づいて、自動的に調整することができます。

- 5 ✓ ボタンを押し、確定します。

自動バッテリーテストの実行

初期設定で有効である自動放電テストは、浮動モードから静止モードへの移行中に実行されます。テストが完了したら、充電サイクルが再起動し、バッテリーを完全に充電し、その後正常に静止モードへと進みます。自動テストは約3か月に1回実行され、浮動モードから静止モードへの移行が3回以上あるまでは再度実行されません。手動バッテリーテストが要求されたら、自動バッテリーテストタイマーがリセットされるため、次の3ヶ月間は実行されません。

自動バッテリーテストの実行方法：

- 自動バッテリーテスト設定で、実行する自動バッテリーテストを有効にしなければいけません。（次のセクション「自動バッテリーテストの設定」をご参照ください。）
- バッテリーを十分に充電しなければいけません。
- UPSは、アクティブな警告がない正常モードか高性能モードでなければいけません。
- 負荷は10%以上でなければいけません。

自動バッテリーテストの設定

自動バッテリーテストの設定方法：

- 1 < ボタンを1秒間押し、メインメニュー選択へ進み、> ボタンを使って、設定メニューへスクロールダウンします。
- 2 ✓ ボタンを押し、設定メニューを表示します。
- 3 > ボタンを使って、自動バッテリーテストオプションへスクロールし、✓ ボタンを押します。オプションが点滅し始めます。
- 4 < ボタン、または > ボタンを使って、自動バッテリーテストを有効、または無効にするか選択します。
- 5 ✓ ボタンを押し、確定します。

自動再起動の設定

バッテリー電力の消耗や、シャットダウン入力信号、あるいは自動シャットダウンコマンドが原因で、出力が切れた後、外部電力が復帰したら、UPSは自動的に再起動します。

外部電力が復帰した際、「自動開始遅延時間」設定を使って、再起動遅延時間量に対し、負荷セグメントを設定することができます。また、「バッテリーが～%まで充電されたら再起動」設定を使って、バッテリー充電レベルに従い、UPS起動を設定することもできます。

追加のUPS機能

この章では、以下の事項について説明します：

- 通信ポート（RS-232およびUSB）
- Dell ネットワークマネジメントカード
- Dell UPS制御ソフトウェア

RS-232およびUSB通信ポート

UPSとコンピューター間に通信を確立するには、適切な通信ケーブル（RS-232ケーブルは同梱されていません）を使って、UPSの通信ポートの一つへコンピューターを接続します。通信ポートの箇所に関しましては、15ページの「UPS後方パネルの識別」をご参照ください。

通信ケーブルを取り付けますと、パワーマネジメントソフトウェアは、UPSを使ってデータを交換することができます。ソフトウェアは、電力環境のステータスにおける詳細を記録するためにUPSをポーリングします。電源異常が起こった場合は、ソフトウェアはすべてのデータを保存し、機器の電源を順序正しく切るよう伝えます。

RS-232通信ポートのケーブルピンは、図 25に特定されており、ピンの機能は、表 8で説明されています。

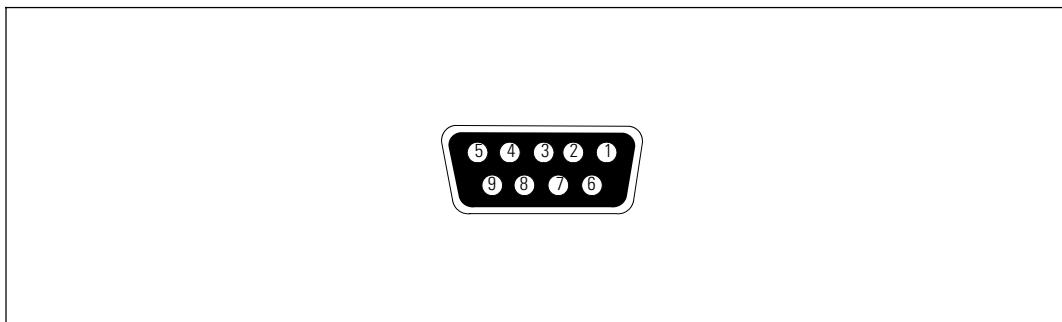


図 25. RS-232通信ポート（DB-9コネクタ）

表 8. RS-232通信ポート ピン配列

ピン	シグナル名	機能	UPSによる指示
1		未使用	—
2	Tx	外部装置に転送	アウト
3	Rx	外部装置から受信	イン
4		未使用	—
5	GND	シグナル共通 (シャーシに直結)	—
6		未使用	—
7		未使用	—
8		未使用	—
9		未使用	—

*未使用のピンは、すべての型において、取り付けられていない状態になっていなければいけません。

Dell ネットワークマネジメントカード (オプション)

Dell オンライン式ラック型UPSには、通信ベイが一つあり、オプションのDell ネットワークマネジメントカードに対応しています。通信ベイの箇所につきましては、図 26をご参照ください。

通信カードを取り付ける前に、UPSをシャットダウンする必要はありません。

- 1 2つのネジで固定されたスロットカバーを取り外します。ネジを固定します。
- 2 通信カードをスロットへ挿入します。
- 3 両方のネジでカードを固定します。

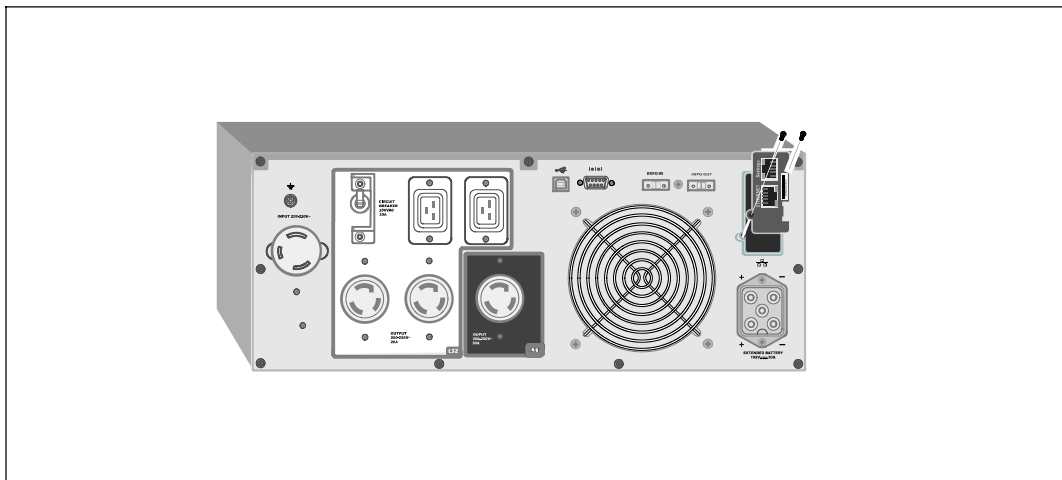


図 26. Dell ネットワークマネジメントカード

Dell ネットワークマネジメントカードによる制御コマンドの無効方法の詳細に関しましては、43ページの「シリアルポート設定による制御コマンド」をご参照ください。

詳細に関しましては、*Dell ネットワークマネジメントカード ユーザーガイド*をご参照ください。

LANカードの転送速度は10/100 Mbpsです。

Dell UPS制御ソフトウェア

各Dell オンライン式ラック型UPSには、Dell UPS制御ソフトウェアが同梱されています。

Dell UPS制御ソフトウェアは、UPS電力およびシステムデータや電力潮流の最新画像を表示します。また、重要な電力事象を完全に記録することができ、重要なUPS情報や電力情報について通知します。停電の際にDell オンライン式ラック型UPS/バッテリーの電力が低下した場合、UPSのシャットダウンが起こる前に、ソフトウェアが自動的にコンピュータシステムをシャットダウンし、コンピューターのデータを守ります。

ソフトウェアによる制御コマンドの無効方法の詳細に関しましては、43ページの「シリアルポート設定による制御コマンドのユーザー設定」をご参照ください。


UPSのメンテナンス

この章では以下の実行方法を説明しています：


- UPSおよびバッテリーの手入れ
- UPSの移動
- UPSおよびバッテリーの保管方法
- バッテリーのテスト方法
- UPSファームウェアの更新


UPSおよびバッテリーの手入れ

最適な予防整備には、UPS周辺をきれいにし、ほこりのない状態にしておいてください。周辺がほこりが多い場合は、システムの外側を掃除機で清掃してください。バッテリー寿命を保つため、室温が25 C (77-F)の状態ですべてを保管してください。

 **注記：**UPS内のバッテリーは、3～5年の耐用年数と評価されています。使用頻度や室温によって、耐用年数は異なります。予想されている耐用年数以上使用した電池は、ランタイムが極端に減少することがあります。機器が最大効率で作動するよう、バッテリーは最低5年に1度、交換してください。

UPSの移動

 **注記：**移動する前に、UPSの内蔵バッテリーを切り離さなければいけません。

 **注意：**以下の事項は、バッテリーや必要とされる安全上の注意に関して知識のあるスタッフが行うか、知識のあるスタッフが監視する必要があります。許可のないスタッフをバッテリーに近寄らせないようにしてください。

UPSを移動する必要がある場合は、機器を移動する前に、バッテリーを切り離さなければいけません（取り外す必要はありません）：

- 1 UPSの電源がオフで、電気プラグが抜かれているか確認します。
- 2 キャビネットの前方を自分の方に向け、UPSを安定した平らな場所に置きます。

- 3 UPSのフロントカバーを取り外します（図 27を参照）。

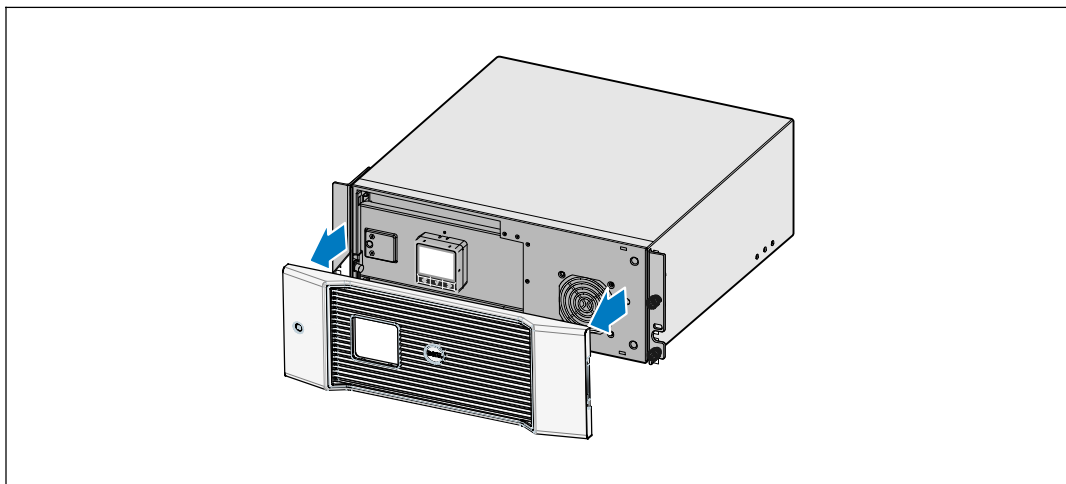


図 27. UPSのフロントカバーの取り外し方法

- 4 内蔵バッテリーのコンネクタを外します（図 28を参照）。

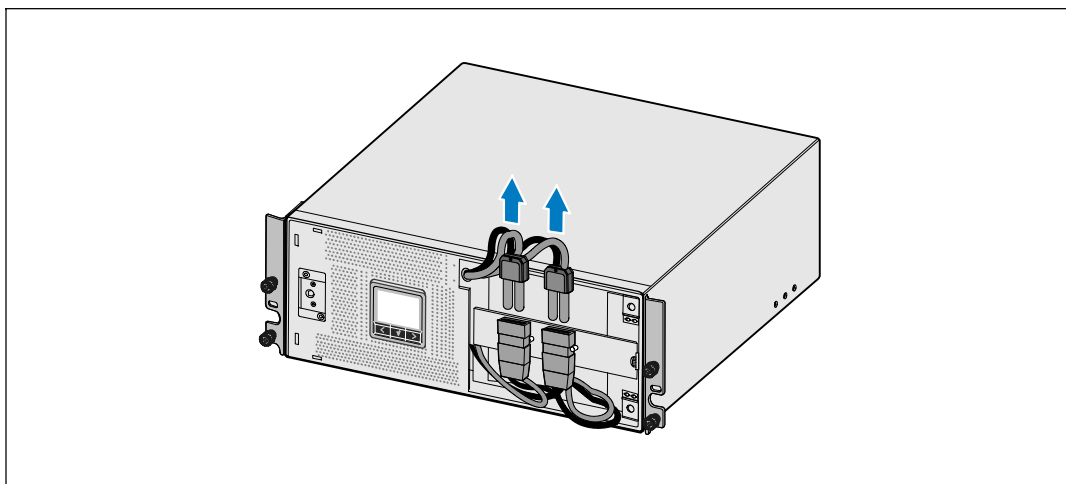


図 28. 内蔵バッテリーのコンネクタの取り外し方法

- 5 UPSのフロントカバーを取り外します（図 29を参照）。

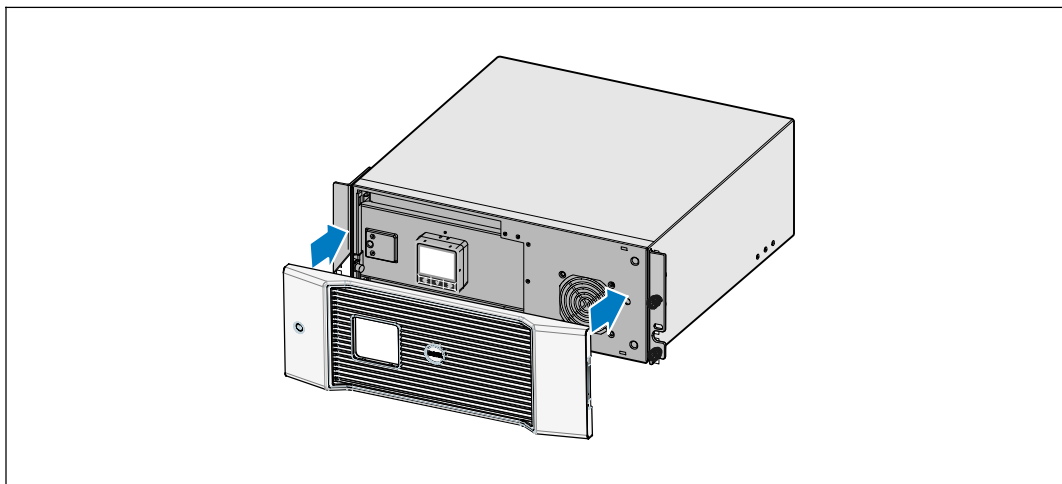


図 29. UPSのフロントカバーの取り外し方法

UPSおよび電池の保管方法

UPSを長期間保管する場合は、UPSをコンセントに差し込み、6カ月おきに電池の再充電を行ってください。バッテリーは、約4時間で、90%の容量まで充電されます。ただし、長期間の保管後は、バッテリーを48時間充電することを推奨いたします。

発送用段ボールのラベルに記載された電池の再充電日をご確認ください。日付が過ぎていて、電池の再充電がされていない場合は、UPSのご使用はおひかえください。顧客サービス担当者へお問い合わせください。

バッテリーの交換時期

ステータス要約画面に、「バッテリー修理」警告や、連続した警報音と共にUPS故障アイコンが表示されたら、バッテリーの交換が必要です。新しいバッテリーのご注文は、顧客サービス担当者へお問い合わせください。

バッテリーのテスト

バッテリーテストの実行方法：

- バッテリーを十分に充電しなければいけません。
- UPSは、アクティブな警告がない正常モードか高性能モードでなければいけません。
- 負荷は10%以上でなければいけません。

バッテリーテストの実行方法：

- 1 UPSをコンセントに差し込み、最低48時間バッテリー充電を行います。
- 2 <を1秒間押し、メインメニュー選択を表示し、>ボタンを使ってコントロールメニューへスクロールダウンします。
- 3 ✓ ボタンを押し、コントロールメニューを表示します。
- 4 >ボタンを押し、「バッテリーテスト」オプションへスクロールします。
- 5 ✓ ボタンを押し、バッテリーテストを開始します。

バッテリーテスト中は、UPSはバッテリーモードに変わり、当初予想のランタイムの25%のバッテリーを放電します。前方パネルは、「バッテリーテスト実行」およびテストが完了した%を表示します。バッテリーテストの終了後、UPSのフロントパネルに結果が現れます。

UPSファームウェアの更新

最新版でUPSファームウェアを更新する場合は、www.dell.comでアップデート情報をご確認ください。最新版のファームウェアやインストール用の説明書をダウンロードすることができます。

仕様

この章では、以下の仕様について説明しています：

- 型リスト
- 寸法および重量
- 電気入力および出力
- 環境保護および安全性
- バッテリー
- UPSブロック表

表 9. UPS型リスト

	200V型	208V型	230V型
UPS 型	DellR4200LHVUS (746FR), 4200W	3750R OL (K804N), 3750W 4700R OL (J730N), 4200W	3750R OL (H952N), 3750W 4200R OL (K805N), 4200W
外付けバッテリー モジュール (外付けバッテリー モジュール)	3750R および 4200R 外付けバッテリーモジュール (J739N)、192 Vdc/30A		

表 10. 寸法および重量

	UPS 型	外付けバッテリーモジュール 型
UPSの寸法 (W×H×D)	438.0×171.5×801.4 mm (17.2"×6.8"×31.5") - 4U	438.0×127.0×735.0 mm (17.2"×5.0"×29.0") - 3U
重量	66.0 kg (145.5 ポンド)	53.0 kg (116.8 ポンド)

表 11. 電気入力

	200V型	208V型	230V型
公称電圧	200-240V	200-220V	220-240V
電圧範囲 (工業規格)	160-286V 自動検出	155-255V 自動検出	160-286V 自動検出
公称周波数	50/60 Hz 自動検出、±3 Hz		
効率 (ノーマルモード)	>95%		
ノイズフィルタリング	フルタイムEMI/RFIフィルタリング		
接続	3750W: 2m、L6-30P 同梱の電源コード 4200W: 配線接続	3750W: 2m、L6-30P 同梱の電源コード 4200W: 配線接続	3750W: 配線接続 4200W: 配線接続

表 12. 電気出力

	200V型	208V型	230V型
電力レベル (公称入力時での定格)	4200W	3750W 4200W	3750W 4200W
電圧変動範囲 (ノーマルモード)	公称電圧の-6%から6% 注記：自動検出入力圧力や顧客による設定によって変わります。		
電圧変動範囲 (バッテリーモード)、公称電圧±5%	公称電圧の-6%から6% 注記：自動検出入力圧力や顧客による設定によって変わります。		
電圧波形	正弦波		
出力レセプタクル	4200W:(6) IEC 320-C13; IEC用は10A、UL用は15A (4) IEC 320-C19、IEC用は16A、 UL用は20A	3750W: (2) L6-20R; 20A (1) L6-30R、30A (2) IEC 320-C19、20A 4200W: (2) L6-20R; 20A (1) L6-30R、30A (4) IEC 320-C19、20A	3750W:(8) IEC 320-C13; IEC用は10A、UL用は15A (2) IEC 320-C19、IEC用は16A 、UL用は20A 4200W:(6) IEC 320-C13; IEC用は10A、UL用は15A (4) IEC 320-C19、IEC用は16A、 UL用は20A

表 13. 環境保護および安全性

	200V型	208V型	230V型
操作温度	1,500メートル以下：0°C から 40°C (32°F から 104°F); UL 試験済み 25°C (77°F) 1,500メートル以上：0°C から35°C (32°F から95°F)		
輸送／保管温度	-15°C から 60°C (5°F から 140°F)		
相対湿度	0-95% 結露なし		
操作高度	海拔最高3,048メートル (0-10,000 ft)		
可聴ノイズ	オンラインモード/バイパスモード（負荷75%以下）で55 dBA 以下、室内温度		
ファン速度	オフ：UPSがスタンバイモード、あるいは負荷がない際 低速度：負荷が80%の際 高速度：負荷が80%、あるいはUPSがバッテリーモードの際		
サージ抑制	ANSI/IEEE C62.41; 1991 カテゴリ-B3		
安全適合	UL 1778 第4版; CSA C22.2, No. 107.3; IEC/EN 62040-1-1; IEC/EN 60950-1	UL 1778 第4版; CSA C22.2, No. 107.3	UL 1778 第4版; CSA C22.2, No. 107.3; IEC/EN 62040-1-1; IEC/EN 60950-1
安全マーク	UL, cUL, CE, GS, GOST, BSMI, S-MARK, KC, NRCS, C-tick	UL, cUL, VCCI	UL, cUL, CE, GS, GOST, BSMI, S-MARK, KC, NRCS, C-tick
EMC (クラスA)	IEC/EN 62040-2; EN55022/CISPR22; ICES-003; CNS14757-2; AS/NZS62040.2; FCC Part 15; KN22; GB7260.2; EN 55024/CISPR 24	FCC 第15章、ICES-003, VCCI	IEC/EN 62040-2; EN55022/CISPR22; ICES-003; CNS14757-2; AS/NZS62040.2; FCC Part 15; KN22; GB7260.2; EN 55024/CISPR 24

表 14. バッテリー

設定	3700W: (16) 12V, 7.2 Ah 内蔵バッテリー; (16) 12V, 7.2 Ah 外付けバッテリーモジュール 4200W: (16) 12V, 7.2 Ah 内蔵バッテリー; (16) 12V, 7.2 Ah 外付けバッテリーモジュール
バッテリーの種類	CSB GP1272 7.2 Ah or YUASA NP7-12 7Ah
電圧	3750W: 192 Vdc internal, 192 Vdc/30A 外付けバッテリーモジュール 4200W: 192 Vdc internal, 192 Vdc/30A 外付けバッテリーモジュール
ヒューズ	UPS : (1) 30A ヒューズ 外付けバッテリーモジュール:(4) 30A ヒューズ
種類	密閉型、メンテナンス不要、弁制御式、鉛酸
充電	公称ラインで、90%の使用可能容量まで約4時間。追加の電力供給負荷なし
モニタリング	初期の不具合検知および警告用の高度なモニタリング
バッテリーランタイム*	3750W 内蔵バッテリー: 100%負荷で5分/50%負荷で21分 4200W 内蔵バッテリー: 100%負荷で5分/50%負荷で16分 外付けバッテリーモジュール 1個付属の3750W : 100%負荷で14分/50%負荷で43分 外付けバッテリーモジュール 1個付属の4200W : 100%負荷で11分/50%負荷で35分

*バッテリーランタイムは、おおよその時間であり、負荷設定やバッテリー充電によって異なります。

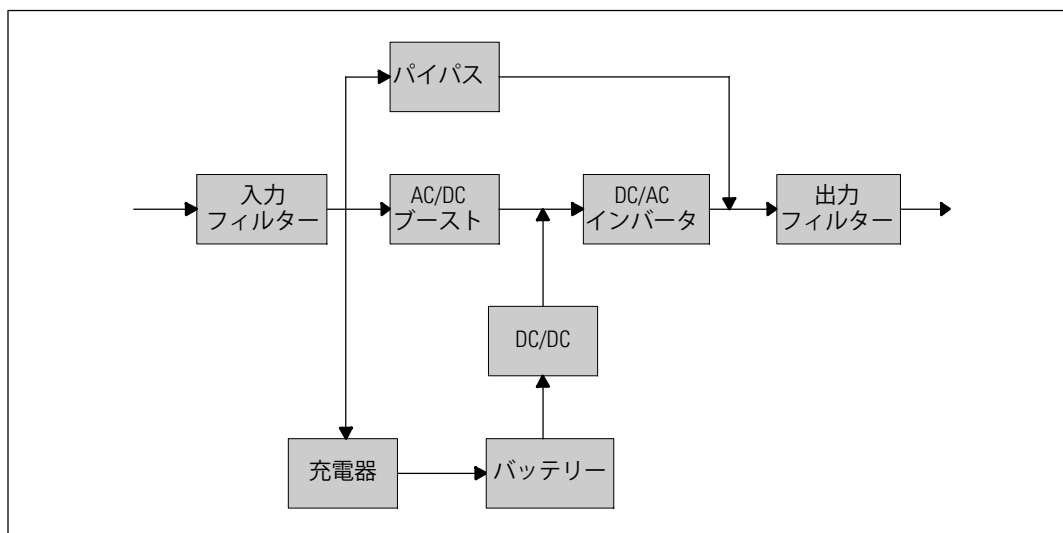


図 30. オンラインUPSブロック図

トラブルシューティング

Dell オンライン式ラック型UPSは、耐久性の高い自動操作を行えるよう設計されており、可能性のある作動上の問題が起こった際はいつでも警告を出します。コントロールパネルが表示する警告は通常、出力電力が影響を受けていることを意味しません。ユーザーに警告するための予防アラームです。警告ブザーとともに、アクティブ警告やアクティブ通知を発します。

警告の表示方法および状態


コントロールパネルは、以下の2つのメインメニューからトラブルシューティング情報を表示します：

- **UPSステータスメニュー**：アクティブ警告のすべてを表示
- **イベントログメニュー**：アクティブおよび解決済みの警告を含む、50件の最新イベントを表示

UPSステータスメニュー

UPSステータスメニューから、以下のトラブルシューティング情報の画面を表示することができます：

- **ステータス要約画面**：ステータス要約画面は、モードおよび負荷に関する情報を表示します。重大な警告がある場合、ステータス要約画面は、正常状態である青の背景に白のテキストの画面から、琥珀色の背景に濃い琥珀色のテキストの画面に変わります。
- **通知、または警告画面**：各アクティブ通知、または警告に対し、個別の画面が現れます。アクティブ警告や通知がない場合は、ディスプレイは「アクティブ警告なし」と表示されます。
- **バッテリーステータス画面**：バッテリーステータス画面は、バッテリー充電モードや、バッテリーが充電されたパーセンテージ、存在する負荷レベルでのランタイムを表示します。

 **注記**：警告がアクティブの際、ユーザーが画面のロックを有効にしていなければ、コントロールパネルは自動的にアクティブ警告を表示します。

UPSステータスメニューによるトラブルシューティング情報の表示方法：

- 1 < ボタンを1秒間押し、メインメニュー選択へ進みます。
- 2 ✓ ボタンを押し、UPSステータスメニューを表示します。
- 3 > ボタンを押し、UPSステータス要約画面を表示します。
UPSステータス要約画面が、負荷情報を提供します。ステータスアイコンが、UPS作動モードを示します（表3（37ページ）を参照）。
- 4 > ボタンを使って、アクティブ通知およびアクティブ警告画面をスクロールします。
- 5 すべての警告をスクロールした後、> ボタンを押し、バッテリーステータス画面を表示します。

イベントログメニュー

イベントログメニューから、イベントや通知、警告など、新しいイベントから古いイベントの順で表示された最新の50件のイベントを表示することができます。

イベントは、「時間設定完了」などステータス情報としてイベントログに記録された静止状態です。イベントは対処する必要がありません。

通知および警告は、イベントが発生した際の記録であり、該当する場合、削除された際の記録です。

- アクティブ通知などの通知は、イベントログに記録されます。「UPSバッテリーモード」などのアクティブ通知は、断続的なビープ音によってユーザーに知らせます。通知は通常、対処する必要はありません。
- アクティブ警告などの警告は、イベントログに記録されます。アクティブ警告は、断続的なビープ音によってユーザーに知らせます。「出力過負荷」や「ヒートシンク温度過昇」などがその例です。アクティブ警告は対処する必要があります。

メインステータスメニューが初期設定において表示されます。イベントログメニューによるトラブルシューティング情報の表示方法：

- 1 < ボタンを1秒間押し、メインメニュー選択へ進み、イベントログメニューへ>を使ってスクロールダウンします。
- 2 ✓ ボタンをクリックし、イベントログリストを表示します。
- 3 > ボタン、または< ボタンを使って、表示されたイベントや通知、警告をスクロールします。

一般的な警告および状態

表 15は、一般的な警告および状態を示しています。

表 15. 一般的な警告および状態

警報音および状態	可能性のある原因	行動
UPSは予想されたバックアップ時間を表示しません。	電池の充電または修理が必要です。	外部電力を用い、バッテリーを、48 時間、充電してください。症状が変わらない場合は、顧客サービス担当者までご連絡ください。
UPS出力レセプタクルには電力はありません。	UPSがスタンバイ・モードになっている。	フロントパネルがUPSステータス要約画面を表示するまで、オン/オフボタンを押し、接続された機器に電力を供給してください。
UPSが起動しません。(LCDがオフ。)	電源が接続されていません。	電源の接続をご確認ください。また、バッテリーが接続されているかご確認ください。
UPSは正常に作動するが、保護している機器のいくつか、またはすべての電源が入りません。	機器が正しくUPSに接続されていません。	機器がUPSレセプタクルに接続されているかご確認ください。また、負荷セグメントがオンになっているかご確認ください。
バッテリーテストが実行しない、または中断しました。	54ページの「自動バッテリーテストの実行」に記載されている状態の一つが存在していません。	状態を解決し、テストを再度実行してください。
UPSがバイパスモードに移りません。	バイパスのユティリティが有効ではありません。	バイパスのユティリティをご確認ください。UPSは、不安定、あるいは電圧低下状態のバイパス外部電力を受けています。
	バイパスモードを使用することができません。	バイパス設定が正しく設定されているかご確認ください。42ページの「設定」をご確認ください。
UPSバイパスモード (通知 169) 継続的な警報音	UPSがバイパスモードによって作動しています。	機器がバイパスの外部電力へ移行しました。バッテリーモードは使用不可となり、機器は保護されませんが、外部電力は引き続き受動的にUPSによってフィルター処理されます。以下の警告の一つをご確認ください：温度過昇、過負荷、またはUPS故障。
手動バイパスモード (通知 143) 断続的な警報音	UPSは手動でバイパスモードへ移行するよう操作され、コマンドが出るまで、バイパスモードのままになります。	なし。
UPSバッテリーモード (通知 168) 断続的な警報音	停電が起こり、UPSはバッテリーモードになります。	UPSは、バッテリー電力で機器に電力を供給します。機器の電源を切る準備を行ってください。

表 15. 一般的な警告および状態(続く)

警報音および状態	可能性のある原因	行動
バッテリー未接続 (通知 199) 継続的な警報音	UPSが内蔵バッテリーを認識していません。	症状が変わらない場合は、顧客サービス担当者までご連絡ください。
低バッテリー警告 (通知 56) 継続的な警報音	バッテリーの圧力が、このUPSに定められているバッテリー切断レベル以下です。これは、ヒューズ溶断、間欠的なバッテリー接続、あるいはバッテリーケーブルが接続されていないことが原因である可能性があります。	すべてのバッテリーが正しく接続されているかご確認ください。症状が変わらない場合は、顧客サービス担当者までご連絡ください。
シャットダウン処理開始 (通知 55) 継続的な警報音	UPSが突然に作動を停止する状態になったため、外部電力が復旧しなければ、追加の通知なく、外部装置への通信が停止します。	この警告はおおよその数字です。シャットダウンまでの実際の時間は、UPSの負荷や外付けバッテリーモジュール（外付けバッテリーモジュール）有無によって異なります。
シャットダウン処理開始 (通知 55) 継続的な警報音	UPSが突然に作動を停止する状態になったため、外部電力が復旧しなければ、追加の通知なく、外部装置への通信が停止します。	バッテリー残存時間がゼロに達した際、警告が出されます。すべての接続装置は、すでにスムーズにシャットダウンしています。
バッテリーテスト失敗 (通知 191) 断続的な警報音	最後のバッテリーテスト中に、消耗しているバッテリーを検出しました。	これは警告通知です。Dellでは、バッテリーをすぐに交換することを推奨いたします。
サービスバッテリー (通知 149) 継続的な警報音	不良バッテリーを検出したため、充電器を使用することはできません。	顧客サービス担当者へお問い合わせください。
ユティリティが存在しません (通知 59) 断続的な警報音	ユティリティレベルが「ユティリティが存在しません」基準点以下（一般的には<25~50V）に下がっています。	負荷に対応する場合、バッテリーモードへ移行します。負荷に対応していない場合、電源が切れます。
バイパス使用不可 (通知 105)	ユティリティが、UPSに定められたバイパス限界外です。	バイパス設定をご確認ください。42ページの「設定」をご確認ください。
入力AC過電圧 (通知 6) 断続的な警報音	商用圧力が、最大作動範囲を超えています。	負荷に対応している場合、UPSはバッテリー運転に移行します。

表 15. 一般的な警告および状態(続く)

警報音および状態	可能性のある原因	行動
入力AC電圧不足 (通知 7) 断続的な警報音	商用圧力が、最小作動範囲以下です。	負荷に対応している場合、UPSはバッテリー運転に移行します。
入力過／不足周波数 (通知 8) 断続的な警報音	商用周波数が、使用可能な周波数範囲外です。	負荷に対応している場合、UPSはバッテリー運転に移行します。
入力配線に問題があります (通知 194) 継続的な警報音	対地電圧と中和電圧の差が>15Vの際、警告が発せられます。	資格ある電気技術者に入力配線を正しく直してもらってください。UPSが中性線で配線されていない場合、「サイト不具合」が設定メニューで無効になっていなければいけません (42ページを参照)。
リモートエマージェンシーパワーオフ (通知 12) 継続的な警報音	UPSの後部にある外部接触が、REPO操作作用に設定されており、作動しています。	UPSは負荷の電源を切り、スタンバイモードに入ります。詳細に関しては、26ページの「リモートエマージェンシーパワーオフの取り付け方法」をご参照ください。
出力過負荷 (通知 25) 継続的な警報音	負荷レベルが、レベル1の過負荷状態に対し、設定可能な限界値であるか、限界値を超えています。	UPSは、この負荷レベルで、いつまでも負荷をサポートすることができます。 負荷が設定点の5%以下に下がった際、警告がクリアします。
出力過負荷レベル2 (通知 159) 継続的な警報音	負荷レベルが、UPS定格の>101%および<110%です。	UPSから機器のいくつかを取り外します。UPSは引き続き作動しますが、2分以内に故障モードに移行します。 負荷が設定点の5%以下に下がった際、警告がクリアします。
出力過負荷レベル3 (通知 162) 継続的な警報音	負荷が、UPS定格の>110%です。	UPSから機器のいくつかを取り外します。UPSは引き続き作動しますが、300 msから1秒以内に、故障モードに移行します。 負荷が設定点の5%以下に下がった際、警告がクリアします。
バッテリーDC過電圧 (通知 68) 継続的な警報音	バッテリーの圧力レベルが最大許容限界を超えています。	次の動力サイクルまで、UPSは充電器の電源を切ります。顧客サービス担当者へお問い合わせください。
充電器故障 (通知 34) 継続的な警報音	バッテリーの充電器の故障が検出されました。	次の動力サイクルまで、UPSは充電器の電源を切ります。顧客サービス担当者へお問い合わせください。

表 15. 一般的な警告および状態(続く)

警報音および状態	可能性のある原因	行動
インバータAC過電圧 (通知 0) 継続的な警報音	UPSが異常なインバータ 一過電圧レベルを検出 しました。	負荷をサポートしている場合は、UPSはバイパス モードへ変わります。
インバータAC電圧不足 (通知 1) 継続的な警報音	UPSが異常なインバータ 一電圧不足レベルを検出 しました。	負荷をサポートしている場合は、UPSはバイパス モードへ変わります。
整流装置入力過電流 (通知 26) 継続的な警報音	UPSは整流装置電流限界 を超えていることを検出 しました。	負荷をサポートしている場合は、UPSはバイパス モードへ変わります。
インバータ出力過電流 (通知 27) 継続的な警報音	UPSはインバータ出力限 界を超えていることを 検出しました。	負荷をサポートしている場合は、UPSはバイパスモ ードへ変わります。
DCリンク過電圧 (通知 28) 継続的な警報音	リンク、またはレールの 圧力が、上限値を超えて います。	負荷をサポートしている場合は、UPSはバイパスモ ードへ変わります。
DCリンク電圧不足 (通知 29) 継続的な警報音	リンク、またはレールの 圧力が、下限値以下に 下がっています。	負荷をサポートしている場合は、UPSはバイパスモ ードへ変わります。
整流装置故障 (通知 30) 継続的な警報音	バイパスモードまたはコ ンバータモードから回復 している最中に、UPSが 整流装置の故障を検出 しました。	顧客サービス担当者へお問い合わせください。
インバータ不具合 (通知 31) 継続的な警報音	バイパスモード、または コンバータモードから回 復している最中に、UPS がインバータ回路に故障 を検出しました。	顧客サービス担当者へお問い合わせください。
致命的 EEPROM 不具合 (通知 53) 継続的な警報音	装置の故障、あるいは不 適切なフラッシュのアップ グレードが原因で、 EEPROMデータが破損して います。	顧客サービス担当者へお問い合わせください。

表 15. 一般的な警告および状態(続く)

警報音および状態	可能性のある原因	行動
出力短絡 (通知 58) 継続的な警報音	UPSは、出力における異常な低インピーダンスを検出し、出力短絡と判断しています。	UPSが正常モードの場合、使用可能であればUPSはバイパスモードへ変わり、それ以外の場合は、5ラインサイクル後、UPSはシャットダウンします。 UPSがバッテリーモードの場合、5ラインサイクル後、UPSはシャットダウンします。
ファン故障 (通知 193) 継続的な警報音	UPSは、1つまたは複数のファンが適切に作動していないことを検出しました。	これは警告のみです。直ちに顧客サービス担当者へ連絡し、負荷を取り除いてください。

警報音の消音方法

コントロールパネルのいずれのボタンを押し、警報音を消音します。警告の状態を確認し、適切な行動を実行し、状態を解決します。新たな警告がアクティブになった場合、警報音が再び有効になり、前回の警報音のミュート機能を無効にします。